



NCS
japanchess.org
2020.12.25

NCS Letter 22

"Help your pieces so they can help you."
--PAUL MORPHY--

中部快速オープン2020

特集ほか



Contents

中部快速オープン 2020

- ・ 大会レポート p. 03
- ・ 自戦記 IM 小島慎也 p. 04
- ・ 自戦記 大多和優斗 p. 06
- ・ Tournament Highlights p. 08

2020 浪速オープン

- ・ 大会レポート p. 16
- ・ 入賞者レポート p. 17
- ・ CHRISTMAS CHESS PARTY 2020 p. 19
- ・ チェス大会 in アメリカ p. 20
- ・ Calculation Dojo p. 21
- ・ 書籍紹介：TYLER'S REVIEW #2 p. 25
- ・ OTB プレイヤーのための
チェスプロブレム入門③ p. 28
- ・ 盤上この一手 p. 34
- ・ クラブ紹介：札幌チェスクラブ p. 35
- ・ Information p. 38

中部快速オープン 2020 レポート

名古屋チェスクラブの堀江です。今回、11月29日に開催されました「中部快速オープン2020」の大会レポートを御報告させていただきます。

日時：2020年11月29日（日）

会場：ウインクあいち

競技方式：スイス式5回戦・持ち時間25分（+10秒／手）

7月開催で予定していたこの大会は新型コロナウイルスの問題を受け延期となり、例年の6回戦から5回戦・定員20名へと縮小して開催されました。エントリーは申込み開始からほぼ1ヵ月で定員に達した反面、大会が近づくに従い新型コロナウイルスは拡大傾向にあり多少のキャンセルは覚悟しておりましたが申し出は無く、本大会はNCSラピッドレーティング初適用の公式戦大会ともなり、主催運営は勿論、参加プレイヤーは気合い十分に試合に臨みました。

結果：

オープン優勝	IM 小島慎也	4.5 ポイント	（賞金 40,000 円）
2 位	小川 トミー	4.0 ポイント	（賞金 25,000 円）
3 位	大多和 優斗	3.5 ポイント	（賞金 3,750 円）、他 3 名
A 優勝	Jiang,Likai	3.5 ポイント	（賞金 10,000 円）
B 優勝	佐藤 文瑠	3.0 ポイント	（賞金 10,000 円）

（詳細結果は、Chess-Results Server [Chess-results.com](https://chess-results.com) - Chubu Rapid Open 2020 (chess-results.com))

2007 年第 1 回から始まり第 14 回開催となる本大会で、IM 小島慎也さんは通算 6 回目の優勝となります。おめでとうございます。第 2 位には、NCS 公式戦及び大会初参加の小川トミーさんが入賞しました。他の入賞者にも楯・賞金が授与されました。

持ち時間の長短から生じる異なる競技性を持つ対局が同じ枠組みの中で評価される、ある種問題を有していた『スタンダードレーティング適用のラピッド戦』は、今回新しく導入された『ラピッドレーティング適用のラピッド公式戦』が今後増えていくに従い、各々のレーティングの持つ精度の正確・最適性が高まって行く事と思われます。レーティングを気にし短い持ち時間のラピッド戦参加を躊躇していた会員の方も少なからず居られたのではないかと思います。今後 NCS の運営により、一層精度の高いレーティングを獲得でき得る良い機会になると考えます。

棋譜記録に関しては、持ち時間残り 5 分までは棋譜をとるというクラブルールの下で行われました。本来 FIDE ルールではラピッド戦においては記録の必要は無いとされており、またプレイヤー・ボード数により定められた最適審判数で監督されるべきとされていますが、現クラブ大会運営におきましては、プレイヤーの棋譜が重要な証拠・判断材料となる理由からこのルールの下で開催させて頂いております。

また前年の名古屋オープンにおいても行われました電子ボードによるトップボードのライブ中継を実施しました。今回は感染症対策としてのセットのクリーニング等電子ボードならではの問題も多少有りましたが、スタッフ他メンバーの協力もあり何とか実施をする事ができました。最終ラウンドでは電子ボードのエラーにより中継が途絶えてしまうという問題が発生してしまいましたが、今後このような問題への対処法・ルール等を構築し、主要大会での安定したライブ配信が継続できるよう努めてまいりたいと思います。

本年度の名古屋チェスクラブ主催公式戦大会は、名古屋オープン 2020 が中止となった為今大会で全終了となりました。配信視聴も含め御参加頂きました皆様、御世話になりました皆様に深く感謝御礼を申し上げます。

（※別項、Scott,Tyler さんのゲーム解説（英文）もお楽しみ下さい！）

中部快速

自戦記

IM 小島 慎也

今回は 11 月末に参加した中部快速オープンから 1 つゲームを紹介したいと思います。高橋くんとは昨年の名古屋オープンでは同じ白番でドローになっており、今大会でも優勝のために重要な試合になると感じていました。

□ Kojima,S

■ Takahashi,H

Chubu Rapid 2020 (2.1)

1.Nf3 Nf6 2.c4 g6 3.d4 Bg7 4.g3 0-0 5.Bg2 d6 6.0-0 Nbd7 7.Nc3 c6

Fianchetto King's Indian に対しては様々な対策があり、6... Nbd7 は古くから指される変化です。近年は 7... e5 8. e4 exd4 9. Nxd4 Nc5 10. h3 Re8 11. Re1 Bd7!? という変化が人気があるように感じます。

8.e4 Qc7 9.h3 b6?!



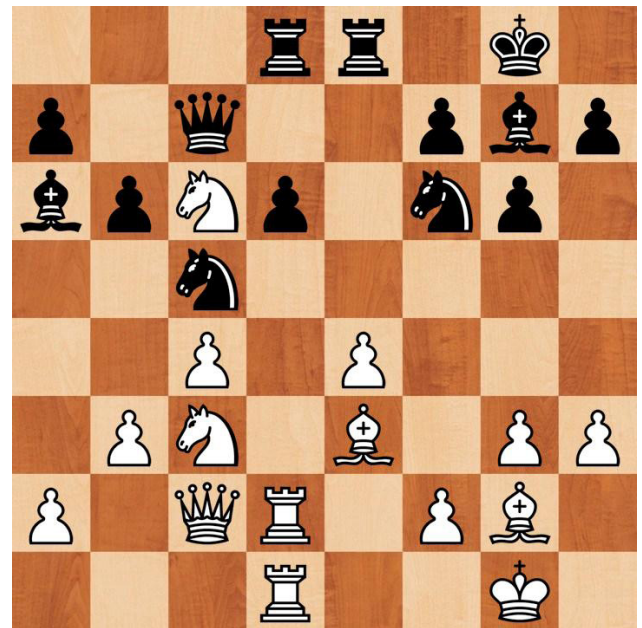
c8 のビショップの活用が最も黒にとって難しいポイントだと思いますが、b7-b6 のセットアップは c6-c5 を仕掛けた際に d5 のマスが弱くなってしまううえ、c6 のポーン自体も弱点になってしまい、あまり一般的ではありません。

せん。c7-c6 が入っていても、上記のように c5 にナイトを跳ばすセットアップが良いと思います。

10.Be3 Bb7 11.Qc2 e5 12.Rad1 Rad8 13.Rd2 exd4 14.Nxd4 Rfe8 15.Rfd1

黒がクイーンを c7 に置いた場合、15. Ndb5!? cxb5 16. Nxb5 Qb8 17. Nxd6 と仕掛けるアイデアもよく知られています。しかし、ここでは難しいマテリアルに少なくとも白は d6 へのプレッシャーで十分に優勢ですので、焦らずにゲームを進めることにします。

15... Ba6?! 16.b3 Nc5?! 17.Nxc6!



黒が方針を見定められていないうちに白から積極的に仕掛けていきます。ナイトを捨てた後に e4-e5 からナイトを取り返す変化は、単にピースを捌くだけでなく、d5 のアウトポストの活用、d6 の孤立化、そしてなによりも g2 のビショップをアクティブにする効果があり、白にとって好ましいと考えられます。

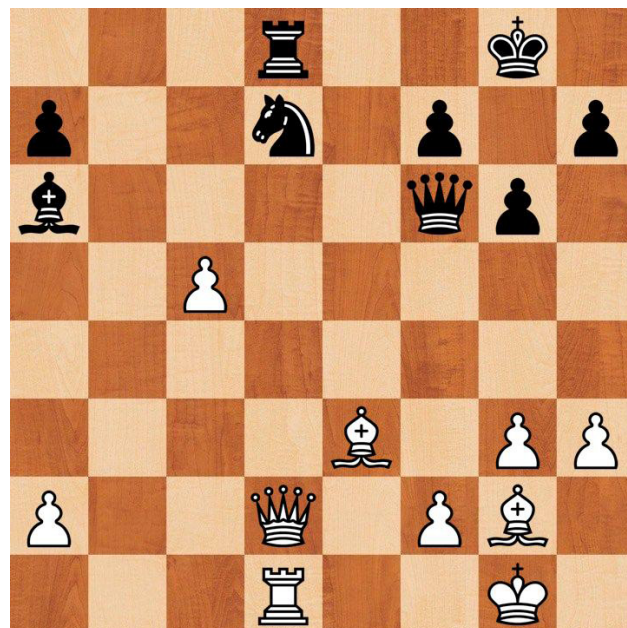
17... Qxc6 18.e5 Qd7

18... Qc7? 19. exf6 Bxf6 20. Nd5+ はシンプルにナイトフォークでビショップが落ちて勝負が決まります。

19.Rxd6! Qe7 20.exf6 Bxf6 21.Rxd8 Rxd8 22.Nd5 Qd6 23.b4!

ポーンアップした白は慌てず、それでいて相手に反撃のチャンスを与えることないよう、決定的な駒得を目指します。f6 でのピース交換から d ファイルを開くタイミングは少し遅らせ、c ファイルに強力なパスポーンを作りにいきます。

23... Nd7 24.c5 bxc5 25.bxc5 Qe5 26.Nxf6+ Qxf6 27.Qd2



様々な手が考えられる局面ですが、d ファイルにクイーンをずらすことでピンを強め、Be3-Bg5 のルーク取りも同時にスレットにするアイディアが最も分かりやすいと考えました。

27... Qe7 28.c6 1-0

最終的には 4 勝 1 ドローで優勝でき、年内最後の大会を締めくくれたこと、嬉しく思います。今年はコロナ禍で大変な中、大会を開催してくださった名古屋チェスクラブ、そして NCS に深く感謝致します。

中部快速

自戦記

大多和 優斗

参加者、運営の皆さんお疲れ様でした。私は3勝1敗1分けで3位でした。4Rで時間切迫での逆転を許してしまったのは残念でしたが、初めてNCSのRapid公式戦に参加することができて良かったです。また、今回は1番ボードがLiveBoardで中継されており、私も3R,4Rが中継されてとても緊張しました(笑)。この自戦記では、2Rの本田さんとの試合を解説します。

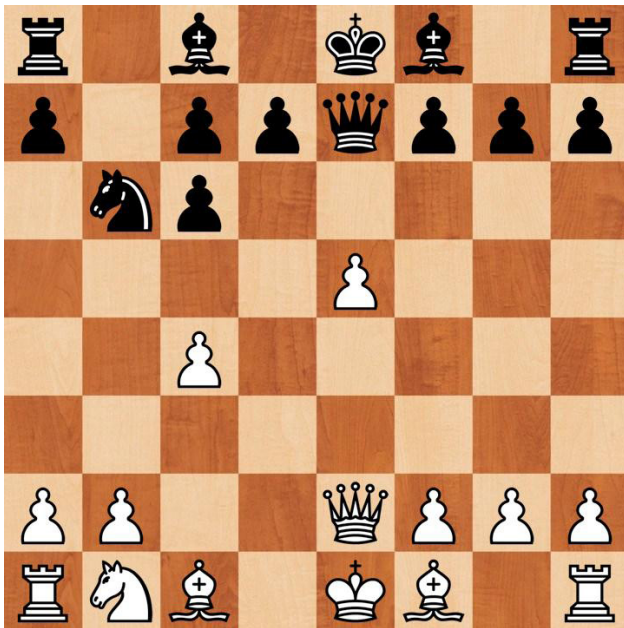
□ Honda, Y

■ Ottawa, Y

Chubu Rapid 2020 (2.2)

1. e4 e5 2. Nf3 Nc6 3. d4 exd4 4. Nxd4 Nf6

5. Nxc6 bxc6 6. e5 Qe7 7. Qe2 Nd5 8. c4 Nb6



黒のアイディアはすぐに Ba6 と指さずに一旦ナイトを退くことで白の出方を見ることです。本譜では、白がすぐに b3 とついてきたので黒は Ba6 の代わりに a5-a4 を指すことが出来ました。

9. b3 a5 10. Ba3 Qe6 11. Bxf8 Kxf8!?

11...Rxf8 と指して次に f6 とする指し方もありました。

12. Nd2 Ba6?

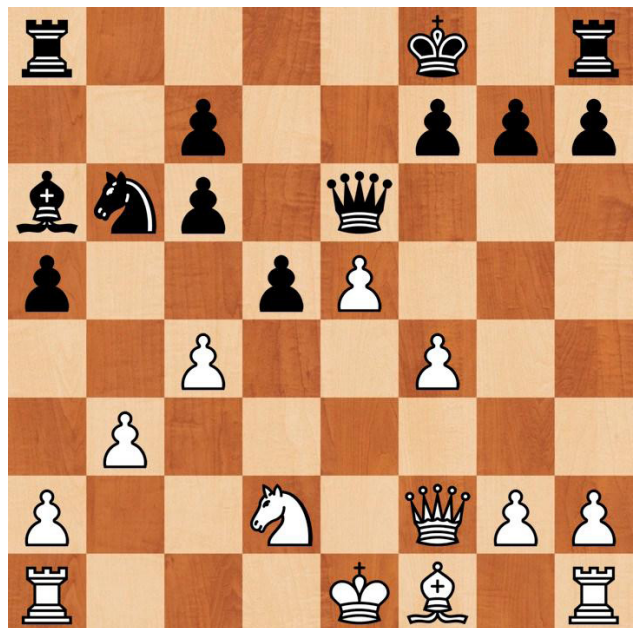
9...a5 の主なアイディアは、a4 とポーンを進めて将来弱点となり得る a ポーンを交換し、a8 のルークを a1 のルークと交換して、弱くなった b3 のポーンを攻撃することです。本譜のように、a4-bxa3 と指す前に Ba6 と指してしまうとポーンを交換した際に白のルークだけがアクティブになってしまいます。ここでは素直に 12...a4 とすぐにつくべきでした。

13. f4 d5?

さらにミスが続きます。この手は Mieses variation (6.e5) ではスタンダードな一手ですが、黒マスビショップが交換された後に指すのは a3-f8 のダイアゴナルを弱めすぎてしまいます。c5 のマスを弱めることなく指せる 13...d6 の方がよかったでしょう。

14. Qf2!

白は先ほどの一手で弱くなった c5 のマスをクイーンでコントロールします。



14...f6 15. O-O-O?

ここまで上手く指していた白ですがここで痛いミス。流石に黒がコントロールしているクイーンサイドにキャスリングするのは危険すぎます。攻め合いを望んでいたようですが、ここでは 15.cxd5! cxd5 16.Bxa6 Rxa6 17.Qc5+（変化図 1）で一方的に黒の弱いポーン達を攻撃して白優勢です。



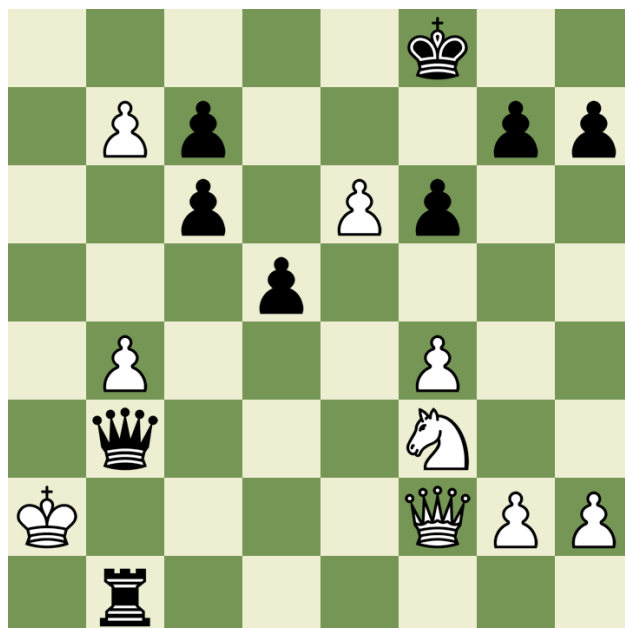
[変化図 1]

15...a4 16. Bd3 axb3 17. axb3 Kf7 18. Nf3 Qe7 19. c5?

この手ではルークが落ちます。19.Qb2! で黒が少し指しやすいですがまだまだ勝負は分かりませんでした。

19... Bxd3 20. Rxd3 Ra1+ 21. Kb2 Rxh1 22. cxb6 Ra8 23. e6+ Kf8 24. b7 Qa3+ 25. Kc3 Qa1+

この手でも勝ちですがもっと綺麗な決め手がありました！ 25...Qa5! 26.b4 Qa3+ 27.Kd2 Rd1+! 28.Kxd1 Qxd3+ 29.Kc1 Ra1+ 29.Kb2 Rb1+ 30.Ka2 Qb3#（変化図 2）



[変化図 2]

26. Kb4? Qa5# 0-1

26...Kd2 としてエクスチェンジダウンを粘るのが最善でした。

Rapid らしい二転三転するゲームでしたが何とか勝ちをもぎとれて良かったです。今大会は人数制限もあり大会も短縮しての開催でしたが、運営の方の尽力で、試合できる環境を作っていただけたことに感謝しています。短い持ち時間の中で指すのはとても楽しかったので、またこういった Rapid の大会に出られることを楽しみにしています！！

CHUBU RAPID OPEN 2020

TOURNAMENT HIGHLIGHTS

BY SCOTT, TYLER

Twenty players from various regions of Japan congregated in Nagoya on Sunday, November 29th, for an epic 5 round rapid tournament. Due to the fast-paced nature of the tournament, many exciting games were played, featuring glorious victories, heart-breaking blunders, and everything in between.

In this article, I analyze some of the key games played by the winners of this tournament. Fasten your seatbelts and enjoy the ride!

Class-B winner: Sato, Takeru

Sato-san had a great tournament, scoring a respectable 3/5 points, earning him the Class-B prize. Here is his 5th round game:

Misawa,Yuki - Sato,Takeru [D08]

Chubu Rapid Open 2020 (5),
29.11.2020

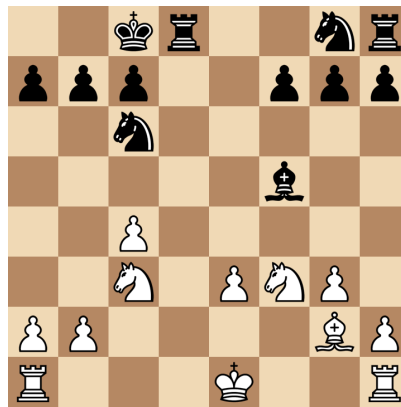
1.d4 d5 2.c4 e5 [The Albin Counter-Gambit! Gambits like this one are often very effective in blitz and rapid.]

3.dxe5 d4 4.e3? [This is known to be a mistake and essentially falls into what is known as "Lasker's Trap."]

4...Bb4+ 5.Bd2 dxe3 6.fxe3 [6.Bxb4?? exf2+ 7.Ke2 fxg1N+!-+ is a funny way to lose quickly with the White pieces.]

6...Qh4+ 7.g3 Qe4 8.Qf3 Bxd2+ 9.Nxd2 Qxe5 =/+ [White's slight lead in development doesn't fully compensate for her inferior structure.]

10.Qe4 Nc6 11.Ngf3 Qxe4 12.Nxe4 Bf5 13.Nc3 0-0-0 14.Bg2?! [Now the d3 and c2-squares become vulnerable]



14...Nb4 [Trying to punish White for moving her bishop to g2 is understandable, but it doesn't really work.]
[14...Nf6=/+]

15.Nd4 [15.0-0 is safer 15...Bd3?! 16.Rfd1 Bxc4? 17.Ne5! The tactics work out in White's favour. For instance: 17...Rxd1+ 18.Rxd1 Be6 19.Nxf7! Bxf7 20.Bh3+ Kb8 21.Rd8#]

15...Bd3 16.a3 Rxd4? [This looks good at first sight, but is actually a blunder. White can get a clear advantage with best play.]

17.axb4 [17.exd4! Nc2+ 18.Kd2

Nxa1 19.Kxd3 ± When suddenly Black finds himself with a misplaced knight on a1 and his kingside undeveloped.]

17...Rxc4? 18.Rxa7? [18.Bh3+! Kb8 19.Rd1 wins a piece for White, punishing Black for leaving his knight on g8 so long.]

18...Rxb4 19.Bh3+ Kb8 20.Ra1 Nf6 21.Kd2 Rd8 22.Kc1 Ne4 23.Nxe4 Rxe4 24.Rd1 Rxe3 25.Bf1 Rf3 [and Black later converted his advantage.]

0-1

Class-A winner: Jiang, Likai

Jiang-san played well, earning the Class-A prize with 3.5/5 points. In the game below, he managed to outplay his higher-rated opponent:

Jiang,L - Noguchi,K [A04]

Chubu Rapid Open Nagoya (3),
29.11.2020

1.e4 c5 2.Nf3 g6 3.d3 Bg7 4.g3 Nc6 5.Bg2 [This setup is pretty harmless for Black. The knight would rather be on e2, to allow for f2-f4.]

5...e5 6.Nc3 Nge7 7.0-0 0-0 8.Be3 Nd4 [This game has featured typical closed Sicilian play up until here. White now makes a move which looks a bit questionable.]

9.Nd5?! [Making way for the pawn to go to c3, ousting the knight, but I don't see how allowing the doubled pawns helps him. That being said, it isn't easy to suggest a good alternative.]

[9.Ne2 avoids the doubled pawns, but allows 9...d5!]

9...Nxd5 10.exd5 d6 [I would prefer to play Black here, as the weak d5-square is occupied by a pawn, and he can play ...f5 soon, creating a mobile pawn centre. White's bishop on g2 also doesn't look particularly good.]

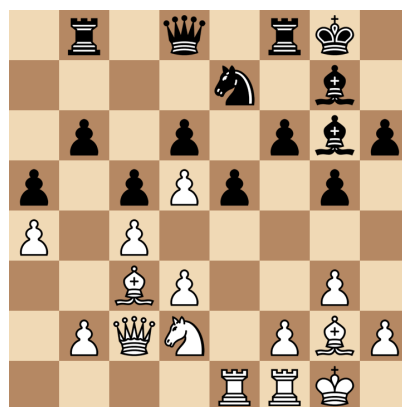
11.c3 Nf5 [11...Nxf3+ 12.Bxf3 f5=/+ Looks great for Black.]

12.Bg5 f6 13.Bd2 Rb8 [Black could also try to play on the kingside with 13...Ne7 14.c4 h6 preparing ...f5 without allowing Ng5. However, 15.b4 b6 16.bxc5 bxc5 17.Rb1 Qc7 18.Qa4 looks to give White good play on the queenside 18...a5 19.Qb3 Bf5 20.Rfe1 Rfb8 is a possible continuation, which looks roughly balanced.]

14.a4 b6 15.c4 Ne7 16.Rb1 Bf5 17.Qc2 a5 18.Rbe1 g5?! [This move makes it harder for Black to play ...f5, which is his desired pawn advance. The bishop on g7 also starts to look like a tall pawn.]

[18...Bd7 19.b3 h6 (19...Nf5 heading for d4 at the right moment, may also be good.; 19...f5 20.Ng5 may be annoying) 20.Bc3 f5 21.Nd2 may have been a better setup to aim for.]

19.Bc3 h6 20.Nd2 Bg6



21.f4 [White's heavy pieces look better coordinated for the opening of the position than Black's.]

[21.Bh3!/?]

21...exf4 22.gxf4 Qd7 23.Ne4 Nf5?! [23...f5? to take control of e4,

doesn't work 24.Bxg7 Kxg7 25.Qc3+ Kf7 26.fxg5 hxg5 27.Nxg5+ Kg8 28.Re3+- with an overwhelming attack.]

24.Bh3! [This pin is so annoying that Black accepts a damaged pawn structure just to get out of it.]

24...Nd4 25.Bxd7 [25.Qg2!/?]

25...Nxc2 26.Re2 Nd4 [26...Nb4 27.Nxd6 Nxd3 28.f5 Bh5 29.Re7 ± leaves Black with a passive position.]

27.Bxd4 cxd4 28.Be6+ Kh8 29.f5 ± Bh5 30.Ree1 Rbd8 31.Ng3 Be8 32.b3 [White's monster bishop on e6 dominates Black's position, and Black is close to lost already.]

32...h5 33.Ne2 g4 34.Nf4 [34. Nxd4+-]

34...Bh6 35.Re4 Ra8 36.Rxd4 Ra7 37.Re4 Rg7 38.Kg2 h4 39.Rfe1 Bg5 40.h3 Bh6 [White went on to convert his advantage.]

1-0



The third round featured three important encounters for determining the tournament leaders: Jiang – Noguchi, Scott – Ogawa, and Otawa – Kojima (from front to back)

Open 3rd place: Ottawa, Yuto

Four players, including yours truly, tied for 3rd place with 3.5/5 points, but Ottawa-san had the best tie-breaks, due to his draw against the top-seed:

(16) Ottawa,Y - Kojima,S [E37]

Chubu Rapid Open Nagoya (3),
29.11.2020

1.d4 Nf6 2.c4 e6 3.Nc3 Bb4 4.Qc2 d5 5.a3 Bxc3+ 6.Qxc3 Ne4 [This is a sharp and interesting variation.]

7.Qc2 c5 8.dxc5 Nc6 9.e3 [This is a solid and safe way to play for White, avoiding the wild complications that can occur after 9.cxd5.]

9...Qa5+ 10.Bd2 Qxc5 [10...Nxd2 11.Qxd2 dxc4 is also possible, with good chances to equalize.]

11.b4 Qe7 12.Nf3 0-0 13.Bd3 Nxd2 14.Nxd2 h6 15.cxd5 [This leaves Black with an IQP, but also opens up his bishop.]

[Considering that the IQP isn't easy to attack, White may have been better off just developing with 15.0-0 though I don't see any problems for Black after something like 15...a5 16.b5 Ne5 17.Be2 Bd7]

15...exd5 16.0-0 Be6 17.Qb2 Rfd8 [Black prepares to liquidate his only weakness by playing ...d4, thereby equalizing the position.]



18.Nb3 [Played to stop ...d4, but Black plays it anyway.]

[18.b5 Na5 19.Rfc1 Rac8 looks roughly balanced.]

18...d4 [This wasn't absolutely necessary, and may give White chances to be better, as the pawn isn't so easy to regain. The players end up liquidating to a heavy-piece ending where White has an extra pawn, but finds it difficult to make progress.]

19.Nxd4 Nxd4 20.exd4 Qf6 21.Rfd1 Rd7 [Of course, not 21...Rxd4?? 22.Bh7+ Kxh7 23.Qxd4+–]

22.Rd2 Rad8 23.Rad1 Bg4 24.f3 Be6 25.Be4 Bd5 26.Bxd5 [26.Qc3 taking the open file, could be tried.]

26...Rxd5 27.Qc3 [It is not obvious how White should make use of his extra pawn, or if he can make progress at all.]

27...g6 28.Qe3 Kg7 29.Qf2 Re8 30.h3 Re6 31.Rc2 Red6 32.Rc4 [32.Rcd2 protects the pawn, but leads nowhere.]

32...b5 33.Rc5 [33.Rc7 a6 also looks solid for Black.]

33...Rxd4 34.Rxd4 Rxd4 35.Qe2 a6 36.Qc2 Qd6 37.Qc3 Kh7 38.Rc7 Rd1+ 39.Kf2 Qf4 40.g3 Qd2+ 41.Qxd2 Rxd2+ 42.Ke3 Ra2 43.Rc3 Kg7 44.h4 [and the players agreed to a draw, putting Ottawa-san in the lead, due to tie-breaks.]

½–½

Open 2nd place: Ogawa, Tommy

Ogawa-san, an unrated player, surprised everyone by winning four games in a row, three of which were against 1900+ rated players. He plays very fast, and is not afraid to take risks, thereby putting his opponents under time pressure quickly, as happened in my game against him:

(19) Scott,T - Ogawa,T [E81]

Chubu Rapid Open Nagoya (3),
29.11.2020

1.c4 Nf6 2.Nc3 g6 3.e4 d6 4.d4 Bg7 5.f3 0-0 6.Bg5 c6 7.Nge2 Qc7 8.Qd2 Re8? [This looks premature. It is too early to determine if the rook will be better placed here than on f8.]

9.0-0-0 Nbd7 10.Kb1 e5 11.d5 cxd5 12.cxd5 Nb6 [I was already really confident about my chances here. Black's queen on c7 is misplaced because I will bring my rook to c1 at some point. Furthermore, the knight usually doesn't go to b6 in this setup until ...a6 and ...b5 have been played.]

13.Nb5 [This isn't necessary, but I thought I could immediately punish Black's opening play.]

13...Qd7 14.Qb4?! [This is too ambitious, due to a tactic that I overlooked.]



[14.Ng3 ± is probably best, with the point that 14...a6 is met by 15.Qb4! with the following tactical shot, which I missed during the game: 15...axb5 16.Bxb5 Qc7 17.Bxe8 Nxe8 18.Rc1 Nxd5 19.exd5+–]

14...Nfxd5 [I completely overlooked this tactic, which my opponent played without much hesitation.]

[14...Nbxd5 was also possible, when Black's compensation is pretty good after 15.exd5 Qf5+ 16.Ka1 Qxg5 17.Nc7 Rb8 18.h4 Qe3 19.Nxe8 Nxe8]

15.exd5 [15.Qb3 was perhaps a better try, or at least a less messy one. I was a bit shaken from my opponent's previous move, and could not decide which move to play. 15...Nf6 16.Nec3 d5 17.Nxa7 Qd6 is an engine line, when I am not sure what is going on.]

15...Qf5+ 16.Ka1 Qxg5 17.Nc7 Rd8 18.Nxa8 Nxa8 [Black's compensation

for the exchange seems quite good here, as he has an unopposed dark-squared bishop, the possibility to expand on the kingside, an extra pawn, and a target on d5 to attack.]

19.Nc3 a6 20.Ne4 Qe7 21.g4 [I played this to discourage ...f5, but it seems to weaken my structure.]

[21.h4 looks better. I considered this, but still could not find a follow-up plan, and didn't want to give my rook the responsibility of guarding the h-pawn. 21...f5 22.Nc3 b5 23.h5 Nb6 24.Bd3 is one example of how White could try to put pressure on Black's kingside, but ultimately Black looks very solid and shouldn't have any serious problems here.]

21...f5?! [21...b5 22.h4 Bb7 going after the d-pawn, is safer, when the onus is on White to prove something.]

22.gxf5 gxf5 23.Nc3 [23.Ng3! is very strong, according to the engine. The knight keeps an eye on f5, and can also jump to h5 at the right moment.]

23...b5 24.Bd3 Nb6 25.h4?! [advancing this pawn doesn't do anything for my position]

25...Rf8 26.Rdg1 Kh8 27.h5?! [27.Rh2 Bh6 when I am not sure what White's plan should be, as his kingside play doesn't seem to be leading anywhere.]

27...Bh6 [Here I started to worry about ...Be3, either immediately or in the near future. Furthermore, I

couldn't find a plan, as my kingside play clearly hasn't led anywhere.]

28.Qb3 [By this point I had almost no time left, and no plan. Meanwhile, Black can easily improve his pieces and push his centre pawns. The rest of the game was a disaster on my part.]

28...Nd7 29.Qd1 Nc5 30.Bc2 Qf6 31.Qe1 b4 32.Na4 a5 33.Nb6?! Ba6 34.Na4 Bc4 35.Nxc5 dxc5 36.Qf2?! [36.Qd1 Be3 37.Rg2 Bd4 38.Bb3 and I am still managing to hold onto the d-pawn, but my pieces are passive.]

36...Bxd5 37.Qxc5 Bxf3-/+ 38.Rh2 e4 39.Qf2 Bg7 40.Bb3 Qd4 41.Qg3? Bg4 42.Qg2 e3 43.h6 Be5 44.Rh4?? e2 45.Rb1 Qxb2+ [and here I resigned, as it is a forced checkmate. Ouch!]

0–1

Otawa-san also couldn't handle the pressure, and tragically lost from a winning position:

(23) Ogawa,T - Ottawa,Y [C52]

Chubu Rapid Open Nagoya (4), 29.11.2020

1.e4 e5 2.Nf3 Nc6 3.Bc4 Bc5 4.b4

[The mighty Evans Gambit! This is a very dangerous practical weapon, especially in blitz and rapid.]

4...Bxb4 5.c3 Ba5 6.Qb3 Qf6 7.d4 exd4 8.0-0 Nge7 9.e5 [9.Bg5 Qg6

10.cxd4 might be a better way to exploit the early development of the Black queen. 10...Nxd4 11.Nxd4 Qxg5 12.Bxf7+ is possible, but looks impractical for Black.]

9...Qf5 10.cxd4 Bb6 11.Bb2?!

[Allowing Black to grab the light-squared bishop so early doesn't seem in the spirit of this opening, as it dramatically reduces White's attacking chances.]

[11.Bd3 Qh5 12.Bb2 preserving the bishop, looks like a better try. (12.d5 sacking another pawn to open up lines might also be dangerous in a practical game.)]

11...Na5 12.Qc3 Nxc4 13.Qxc4

d5=/+ 14.Qb4 [Maybe White should open lines with 14.exd6 cxd6 15.Re1 while the Black king is still in the centre. Creating serious attacking chances without the light-squared bishop is far from easy, however.]

14...a5 15.Qa3 Qd7 [15...Bd7 16.Nc3 Bc6 developing the bishop, may be

a simpler way for Black to play and maintain his advantage, though his bishops aren't well-placed.]

16.Nc3 0-0 17.Rad1 Re8 18.Rfe1

Qf5 19.Ne2 Be6 20.Ng3 Qg6 21.Bc1 Nf5 [21...Nc6 22.h3 f6-/+ undermining the strong pawn on e5, might be simpler. White doesn't seem to have any real compensation for the pawn deficit.]

22.Nxf5 Bxf5 23.Bf4 Be4 24.Nh4

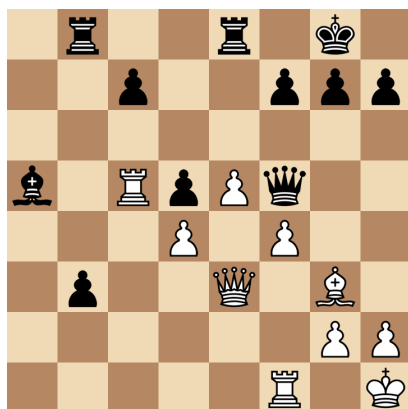
Qg4 25.Bg3 Qe6 26.f3 Bg6 27.Kh1 a4 28.f4 Bf5 [28...Be4!-/+]

29.Nf3 Ba5 30.Rf1 b5 31.Rc1 Qd7

32.Nh4 b4 33.Qe3 [For the last several moves, White was shuffling his pieces around, and it hasn't improved his position. Meanwhile, Black's queenside pawns are becoming dangerous.]

33...Rab8 [33...Reb8!-+ looks better for pushing the queenside pawns.]

34.Nxf5 Qxf5 35.Rc5 b3! 36.axb3 axb3



37.Rcc1?! [37.Rxa5 b2 38.h3 b1Q 39.Rxb1 Rxb1+ 40.Kh2 c6-+ was suggested as White's best try by the engine, which just shows how bad his position is.]

37...Rb5 [37...b2! 38.Rb1 Rb5 doubling rooks, is just winning for Black. The pawn on b2 is a monster, and White doesn't have any meaningful play to counter it. Black doesn't even have to hurry, and can keep improving his position slowly, because White cannot create meaningful threats. 39.Rfd1 Qc2 40.h3 Rb3 41.Qf2 Rc3-+ etc. is one possible continuation. White can't do anything about the b-pawn.]

38.Rb1 Reb8 39.Rb2 Qe4 40.Qxe4 dxe4 41.Be1 [The first of several moves that eventually lead to Black's advantage slipping away.]

41...e3?! [41...c5! 42.dxc5 (42.d5? c4-+) 42...Bxe1 43.Rxe1 Rxc5 44.Kg1 Rc2 45.Reb1 Rxb2 46.Rxb2 f6-+ the b-pawn paralyzes the White rook, while the Black king can make inroads on the kingside.]

42.Bxa5 Rxa5 43.Rfb1 Ra4 44.g3 g5 45.Kg2 Rxd4 46.Kf3 gxf4?! [This exchange wasn't necessary, and seems to help White more than Black.]

[46...Rd3 47.Ke4 (47.Ke2? Rc3-+) 47...Rd2 might be the best winning try at this point. (47...Rc3 48.Kd4 Rc2 49.Rxb3 Rxb3 50.Rxb3 looks like White is holding on.) 48.Rxb3 (48.Kxe3 Rxb2 49.Rxb2 gxf4+ 50.gxf4 Rb4-+) 48...Rxb3 49.Rxb3 e2 50.Re3 g4!-+ stopping Kf3, when the problematic b-pawn has been replaced with a problematic e-pawn.]

47.gxf4 [47.Rxb3! Rxb3 48.Rxb3 fxf3 49.hxg3-/+ looks like White's best try.]

47...Rd3?! [47...e2! 48.Kxe2 (48.Rxe2 c5) 48...Rxf4]

48.Ke4 Rbd8? [This move, probably played in time trouble, throws away Black's advantage.]

[48...Rd2 49.Rxb3 Rxb3 50.Rxb3 Rxh2 looks like a draw, though Black can still try to push a little.]

49.Rxb3 R8d4+ 50.Kf3 c5 51.Rxd3 Rxd3 52.Rc1 Rd2 53.Kxe3 Rxh2 54.Rxc5 Kg7 [The game should be drawn, but Black goes wrong in time trouble.]

55.Ke4 Re2+ 56.Kf5 Re1 57.Rc2

Kf8?? [57...Rg1 58.Rc7 Rg6! =]

58.Kf6+- Ke8 59.Rc8+ Kd7 60.Rh8 Rf1 61.f5 Rh1 62.Kxf7 h5 63.e6+ Kd6 64.e7 [A heartbreaking loss for Black, and a lucky escape for White!]



Ogawa – Otawa battling it out in a sharp Evans Gambit

Open 1st place: Kojima, Shinya

Kojima-san took first place with 4.5/5 points. He was the only one of us who could put a stop to Ogawa-san's winning streak:

Kojima,S - Ogawa,T [B38]

Chubu Rapid Open Nagoya (5),
29.11.2020

1.Nf3 Nf6 2.c4 g6 3.d4 c5 4.Nc3 cxd4 [With this move, the game transposes to an Accelerated Dragon.]

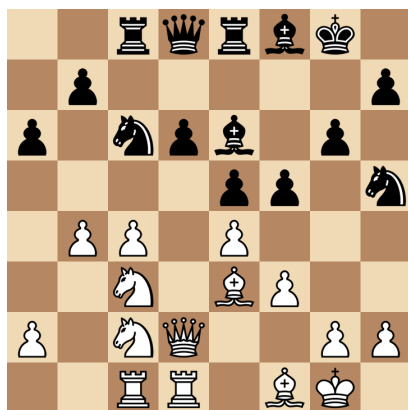
5.Nxd4 Bg7 6.e4 d6 7.Be2 0-0 8.0-0 a6?! [This looks premature, and weakens the b6-square. Sometimes Black plays this move in this structure, but at this point it seems too early to know if it is the appropriate plan or not.]

9.Be3 Nc6 10.f3 e5?! [This move is almost never good in this structure. It weakens d5, leaves a backward pawn on d6, and blocks the bishop on g7. White is already much better with no risk.]

11.Nc2 Be6 12.Qd2 Re8 13.Rfd1 Bf8 14.Rac1 Rc8 15.Bf1 [15.Nd5 right away, may have been stronger.]

15...Nh5 16.b4 f5 [Black tries to drum-up some King's Indian style

counterplay, but his pieces don't look particularly well-placed for a kingside assault, and his positional weaknesses aren't going anywhere.]



17.Kh1 [17.exf5 gxf5 18.Nd5 ± looks great for White.]

17...f4 18.Bf2 Nf6 19.Nd5 Bxd5? [Without this bishop, Black is going to have a very hard time breaking through on the kingside.]

20.cxd5 Ne7 21.a4 g5 22.Na3 Ng6 23.Rxc8 Qxc8 24.Rc1 Qd7 25.b5 g4 26.Nc4 axb5 27.Nb6 Qg7 28.Bxb5 Rd8 29.a5 Qh6 [Black has shifted his queen and knights to the kingside, but what are they doing there? It isn't easy for him to create threats, while White is winning on the queenside.]

30.Rc7+- g3 31.Bg1 gxh2 32.Bf2 [32.Bxh2 is also fine, but it's simpler to leave the pawn on h2 as a shield for the king.]

32...Nh4 33.Bf1 Nh5?? 34.Bxh4 Re8 35.Rxb7 Be7 36.Bf2 Bg5 37.a6 Ng3+ 38.Bxg3 fxg3 39.Qe1 Bh4 40.a7 Qf8 41.Nd7 Qe7 42.Rb8 Qxd7 43.a8Q Rxb8 44.Qxb8+ Kg7 45.Qc1 [A nice game by Kojima-san, punishing his opponent's positional mistakes. Ogawa-san tried his best to create some counterplay on the kingside, but the final result was never in doubt.]

1-0

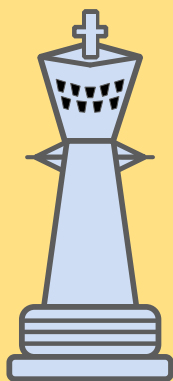


Open section 1st place winner: IM Kojima, Shinya



The tournament champions!

Overall, the tournament was a great success. A big thank-you to Horie-san for organizing it and to all of the participants for abiding by the Covid-19 rules to make such an event possible!



2020浪速オープン NANIWA OPEN CHESS TOURNAMENT

DECEMBER 5 - 6TH, 2020

浪速オープン大会レポート 小島なつみ

8月の大坂夏の陣に続き、浪速オープンにも参加してきました。前大会で知り合った参加者と、大阪の地で元気に再会できて嬉しかったです。簡単ではございますが、大会振り返りレポートを書かせていただきます。

前回の大会に比べ、今回はタイトなスケジュールで敢行されました。持ち時間60分+30秒の試合が1日3局、2日間続けて行われる6Rのスケジュールは久しぶりでしたが、今年は大会自体が少なかったのも、多くの参加者が早く試合したくてうずうずしていたのではないのでしょうか。

初戦ではアップセットもなく、上位陣が順当に勝ちあがる結果になりましたが、ここからアクセルを踏み込んで、最後まで独走した参加者が現れます。赤井清隆さんは、上位陣全員と当たりながらも、丁寧な指しまわしで白星を積み上げていき、リスト4位からの全勝優勝を果たしました。試合中は終始落ち着いた様子で指していたように見えたが、帰りに同乗したエレベーターの中で、「今日というこの日を、一生忘れない」と1文字、1文字、噛みしめるようにお気持ちを頭になされていたのが印象的でした。全勝優勝おめでとうございます！

優勝者は全勝で独走でしたが、対照的に2位は3.5ポイントを持つ6名が並びました。タイブレークの結果、Domenic Clarkさんが2位、横尾秀幸さんが3位入賞に決まりました。Clarkさんはどの試合も、果敢に攻めの姿勢を見せ、チャンスのあるポジションを沢山生み出していました。良いポジションから引き分けに持ち込まれても、その後崩れることなく指し切る姿を見せてくれました。3位の横尾さんは、リスト1位ということもあり、並みならぬプレッシャーもあったかと思います。しかしながら、優勝者以外からは星を落とさない指しまわしを披露し、貫禄を見せつけてくださいました。入賞おめでとうございます。

滞在中、1人で食事を済ませることが何回もあったのですが、暖簾をくぐると、おかあちゃんのような人がぬっと現れ、「どこから来たの?」「もっと食べていきなさい」（自腹です）など、寂しさにぽっと灯をつけてくれる街だなとほっこりさせてくれました。こうした大阪らしさは、今回の浪速オープンの試合の場でも感じられました。終局後の検討戦では、もはやどれが本譜か分からないくらい、試合内容を深掘って熱く語り合い、遠巻きに立っていた観戦者も、やいこの手だ、あの手だと参戦していくスタイル。次第に声のボリュームが小声から地声へとクレッシェンドした時は舌を巻きましたが、東京に戻ったら逆に、静けさが寂しく感じるようになりました。また第二の故郷大阪で、大会に参加する日が待ち遠しいです。



浪速オープンを振り返って 赤井 清隆

12月5, 6日と大阪で行われたトーナメントを日誌風に書いてみましょう。

1日目、高島さんがトーナメントディレクターに専念されたため偶数参加者となり、Byeなしでこの大会は始まりました。

1R 西岡 政成 - 赤井 清隆

1.d4 d5 2.c4 e6 3.Nc3 c5 4.cxd5 exd5 5.Nf3 Nc6 6.e3 Nf6 7.dxc5 Bxc5 8.Bb5
O-O 9.O-O Bg4 10.h3 Bh5 11.g4 Bg4 12.g5 Ne4 13.Qxd5

1Rは黒でタラッシュになりました。11.g4と突かれて「ああ、d5のポーンが落ちるのね。でも何かありそうね」と考えました。局面は予想していた順で進んで



図13.Qxd5 まで

ここでそれらしい反撃かなと思ってQe7と指してみたけど、正しい手は13...Bd6なんだって。それは試合中思いつきませんでした。こういうの昔から見えないな。

13...Qe7 14.h4 Rfd8 15.Qc4 Nxc3 16.Qxc3 Qe4 17.Be2 Qg4+
18.Kh1 Be4 19.Qxc5 Qxh4+ 20.Kg1 Qg4+ 21.Kh2 Rd5



図 21...Rd5 まで

22.Qc4 Rxg5 0-1

結局こうなったのですが、今回のトーナメント中は最善手を逃しつつも、そこそこの手を指し続けることができ、最終的には上出来な結果となりました。

私は去年から公式戦に復帰しています。最近棋力を示す数値はどんどんご同輩と同じように落ちるのですが、それは加齢によるものだろうと思ってました。そんな中、今回の出来の良さはどうしたの？とトーナメント参加者に聞かれたのですが、思いあたるふしは一つだけ。

週に2回水泳に行くようになった。

最近は、フルタイムの仕事とは別に、余暇として数種類のジャンルの音楽に身を置き電子楽譜作りとそのとおりに演奏することに凝っています。フィジカルを上げようと水泳を始めたら心肺能力が上がってブレスが深くなったのですが、そのせいかしら？身体が深く潜れるようになると読みの深度と精度もあがるのかしら。

このトーナメント中、会食がないので宿泊していたホテルでギターの練習をして、試合の合間の時間は自転車で道頓堀や大阪市内を疾走して、街の風景を楽しんでいました。ご同輩達よ、棋力が落ち始めたなら水泳を試してみるというのはいかがでしょうか？

トーナメント結果を見ながら、「今日の日を覚えておこう」と思いました。

		1R	2R	3R	4R	5R	6R	計	順位
1. 横尾 秀幸	1852	W8 1	B6 0.5	W3 1	W4 0	B2 0.5	B14 0.5	3.5	2-7
2. 戸國 峻	1835	B9 1	W5 0.5	B4 0	W7 1	W1 0.5	B3 0	3.5	2-7
3. 岡田 充弘	1828	W10 1	B7 0.5	B1 0	W6 0	B5 1	W2 1	3.5	2-7
4. 赤井 清隆	1772	B11 1	W9 1	W2 1	B1 1	W6 1	B7 1	6	1
5. 高安 メロディ	1761	W12 1	B2 0	W14 0	B11 1	W3 0	B13 0.5	2.5	9-10
6. 小島 なつみ	1751	B13 1	W1 0.5	W7 0	B3 1	B4 0	W8 1	3.5	2-7
7. Clark Domenic	1658	W14 1	W3 0.5	B6 1	B2 0	W8 1	W4 0	3.5	2-7
8. 田部 正治	1647	B1 0	B12 1	W10 1	W14 0.5	B7 0	B6 0	2.5	9-10
9. 高安 信行	1559	W2 0	B4 0	B13 1	W10 1	B14 0.5	W12 0.5	3	8
10. Diba Seyed Reza	1408	B3 0	W13 0.5	B8 0	B9 0	W12 0.5	B11 1	2	11-12
11. 西岡 政成	1380	W4 0	B14 0	W12 1	W5 0	B13 1	W10 0	2	11-12
12. 金原 弘道	1302	B5 0	W8 0	B11 0	W13 0.5	B10 0.5	B9 0.5	1.5	13-14
13. 前田 和輝	1242	W6 0	B10 0.5	W9 0	B12 0.5	W11 0	W5 0.5	1.5	13-14
14. Filipi Portman	UR	B7 0	W11 1	B5 1	B8 0.5	W9 0.5	W1 0.5	3.5	2-7

CHRISTMAS CHESS PARTY 2020 大会レポート

2020年12月12日に東京、きゅりあんにてスイス式で4ラウンドのチェス大会が行われました。題してクリスマスチェスパティー。乾杯のシャンパンもごちそうありませんでしたが、オンラインではない面白いゲームが盤上に繰り広げられました。

常時のマスク、毎回消毒、局後検討なし...そんな環境を我慢してくださった参加者の皆様にお礼申し上げます。

優勝は全勝の勝田さん！

昨年も（優勝ではないが）全勝でしたから、実質の2連覇はお見事です。レーティング1600未満の部では仲佐さんが優勝でした。仲佐さんは麻布学園チェス部の部長だそうで、部員に範を示す戦いぶりでした。他、入賞者の方々は以下の通りです。



Open 入賞者

1st 勝田 裕貴 (Katsuta Yuki) 4.0 /4pts

2nd 三井 峻也 (Mitsui Ryoya) 3.5

3rd 富井 義括 (Tomii Yoshikatsu) 3.0



U1600

1st 仲佐 勇祐 (Nakasa Yusuke) 3

2nd 岡本 直人 (Okamoto Naoto) 2½

3rd Cabrol Puig Eduard 2½



今年用意した34の席はまたたく間に埋まり、キャンセル待ちが何名も出て、チェス大会初めての方が（観戦含めると）10名超え、参加者の遅刻ゼロ！

何かが水面下で起こっている予感がします。日本チェス界の胎動を感じたクリスマスとなりました。

（トーナメント・ディレクター 山田 明弘）



開会挨拶をするGMモーリス・アシュリー



大会会場の様子

チェス大会 in アメリカ 上杉 賀子

NO. 36

全米学年別選手権大会（7年生の部）

2004年12月10日~12日

晋作（13歳）の結果：5.0P/7Game

レーティング1830→1827

大会詳細：[USCFサイトより](#)

フロリダ、オーランドで行われた全米学年別選手権。昨年2位タイ（6年生の部）となり、今年はマークされる立場になりました。ところが最終戦、勝てば3位のところ、2000台に負け、5勝2敗で5ポイント、入賞の15位タイにはなりましたがタイブレイクで16位だったため、トロフィーは小さいものでした。本人はもう少し上を狙っていたので悔しそうでした。

年別は毎年同じようなメンバーで対戦しているわけですが、上位陣の常連は段々学年が上がってくると当然レベルも上がっていて、なかなか上位に残るのが難しくなっています。このあと学年が上がるに連れて全米に出る人数が少なくなりどんどん淘汰されていくことがわかります。晋作もいつまで持ちこたえることができるやら。全米タイトルまでの道程は遠いです。

今回は2日間の欠席で、帰ってきた翌朝は早朝、各先生方をまわり、宿題、テストなどを聞いて抜けた分はお昼休みや早朝に受けることになります。トーナメントプレイヤーとしてこうして遠征し、チェスで欠席することがあるので病気で休む余裕はありません。

日本語補習校の方も帰宅後国語の期末テストをしてすぐに担任の先生にFAXを送りました。段々と日本語補習校が本人の重荷になってきました。現地校の場合、英語のハンディがあるので言い訳もできますが？？日本語のほうは宿題もテストも完璧に、とやっているからです。私達は日本が拠点の家族ですので、週末の補習校も続けてきましたが、こう忙しくなってくると週末の過ごし方を修正しないといけなかもしれません。晋作の学年でも全米上位陣の常連達は毎週末地方のチェス大会に費やしているようで、最後はその経験の差が出たように思います。

ということでチェスでももう少し業績を上げられるようになれば、日本語補習校をやめるというオプションが出てきます。そして、この数カ月後、一旦やめることになるわけですが、その一年後、今度は自ら補習校に復活したいと言い出し、日本語補習校中学校の卒業式まで頑張っていることになると思います。

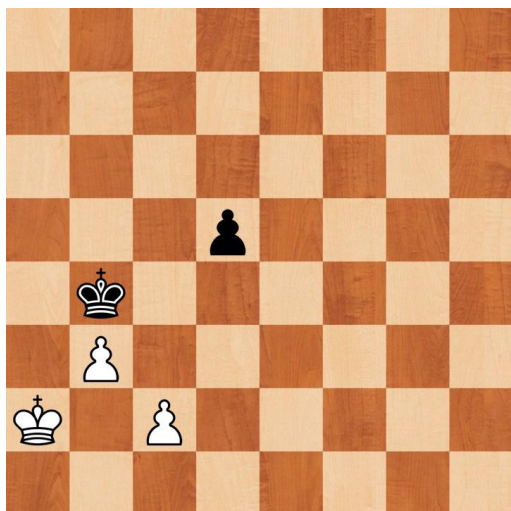


対局する晋作

Calculation Dojo

課題 1

～全ての可能性を考えよう～



Grigoriev 1993 白先白勝ち

今回の課題 1 は実戦ではなく、1993 年に発表された Grigoriev のスタディからの出題とした。白のポーンが 1 つ多いポーンエンディングであり、白先白勝ちの局面である。ポーンエンディングはチェスの基本と言えるが、基本だからこそ奥も深い。この局面から白を持って勝つには正確な読みが必要になる。

読者にはぜひ時間をかけてでもチャレンジしてほしい良間だ。

Mr.B:

1 ポーン少ない黒は、c3 にキングが入り込んだ後、d ポーンを突いていって 1 ポーン交換し、残った 1 ポーン少ないエンディングでキングのオポジションを取ってドローに持ち込みたいところです。白は d ポーンの交換は避けられないので、残った 1 ポーン多いポーンエンディングが勝ちになるかどうか確認します。

1. Ka1! [図 1]

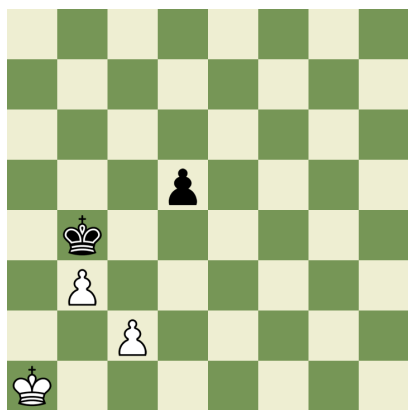


図 1

1. Kb1? Kc3 2. Kc1 d4 [図 2]
3. Kd1 d3 4. cxd3 Kxd3= [図 3]
は、白が b ポーンを守ることができないのでドローです。

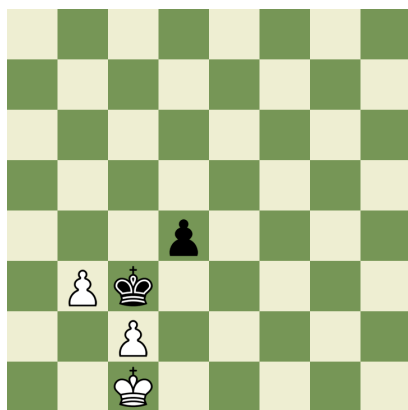


図 2

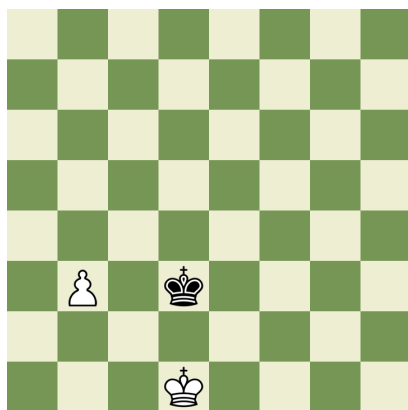


図 3

ここで気づきたいのが、この [図 3] のタイミングで白キングが c1 にいれば、Kb2 と上がってポーンを守ることができるということです。そのため、Kb1-Kc1-Kd1 でなく、Ka1-Kb1-Kc1 と 1 手余計にけることで、[図 3] で Kb2 と上がるプランが実現できます！

なんとなく自分のポーンの守りから

遠ざかる 1 手目は直感に反するように感じます。しかし、純粋なポーンエンディングでは直感に反する手が正解になることが多いので、**このような手も排除せずに考えるのが大事です！**

1... Kc3 2. Kb1 d4 3. Kc1 d3 4. cxd3 Kxd3
[図 4]

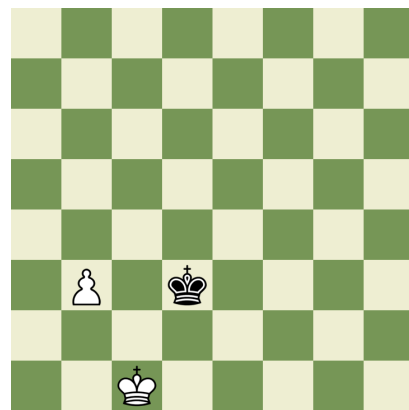


図 4

4... Kxb3 に対しても勝ち方は同様です。5. Kd2 Kb4 6. Ke3 Kc5 7. Ke4 Kd6 8. Kd4+-

5. Kb2 Kd4 6. Ka3 Kc5 7. Ka4 Kb6 8. Kb4+- [図 5]

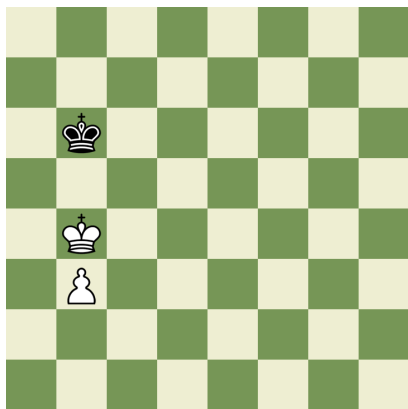


図5

パスポーンの前でオポジションを取ったので、白勝ちになります。

マスター K:

この問題には結構時間がかかりました。白が勝つためには、続く変化を正確に読み切るしかないと思います。

1. Ka1 Kc3 2. Kb1 d4 3. Kc1

1. Ka1 でわざとワンテンポ遅らせることによって、黒が d3 を指してきたときに、b と d どちらかのポーンをサポートしにいけるようになります。黒の手が Kc3 ~ d4 でなければ、いずれ白キングを出せると思うので、白勝ちになると思います。

他の選択肢として、1. Kb2 d4 2.Kc1 Kc3 [図2] は次に Kb1 または Kd1 と指すしかなく、そのときに黒から d3 と突かれてしまうと白のポーンはすべて取られてしまうと思います。1. Kb1 d4 2.Kb1 は 2...d3 [図6] ときて 3. c4 Kxb3 4. Kc1 Kxc4 となり引き分けとなります。

1. Kb1 Kc3 2. Kc1 も 2...d4 で [図2] に合流するためドローとなります。

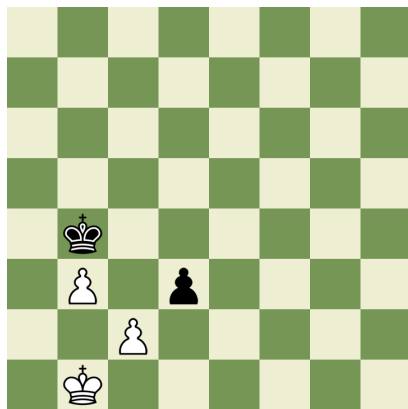


図6

出題者:

課題局面では黒の Kc3-d4-d3 を防ぐことはできない。そこで黒のプランを実行されたあとの局面を把握しておかなければならない。

ポイントは [図2] で、この局面になったときに **白番ならばドロー、黒番ならば白勝ち**なのである。師範代が示してくれたとおり白キングがまっすぐ c1 に向かうと [図2] が白番になってしまうため、1. Ka1 と 1 手余計に使う手が好手になる。

Mr.B さんが言及したとおり、この 1. Ka1 は直感ではなかなか出てこない手だ。それはマスター K さんが「解くのに時間がかかった」と言っていることから理解してもらえるだろう。しかし、特にポーンエンディングでは、ほぼすべての手を読みに入れておかなければ正解にたどり着けない。師範代が勝ちの手順を見つけたのも、普段から注意深く候補手を探す訓練をしているからこそ、といえるだろう。

読みのスタートは候補手を探すところから始まる。「こんな手は思いつきもしなかった」ということは少しずつ減らすように日々練習してみよう。

なお、道場に入門したての読者のために、[図4] からの手順について簡単に補足しておこう。

キング+ポーン vs キングのエンドゲームでは、[図7] に示した星印に白のキングが到達すれば白の勝ちとなる。この星印がついたマスは、白パスポーンの進軍をサポートする重要な位置であり、**キースクエア**と呼ばれる。一度白のキングがキースクエアに入ってしまうと、黒は白のパスポーンを止めることはできない。端ポーンで例外はあるが、最初のうちは**ポーンから1マス空けて前3マス**がキースクエアになると覚えておこう。

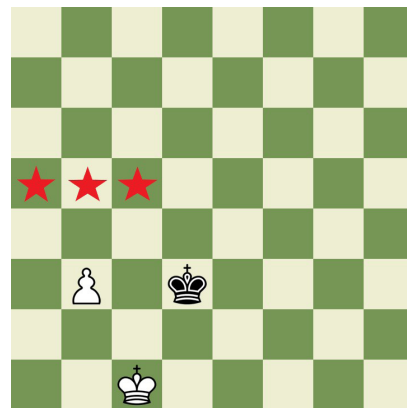
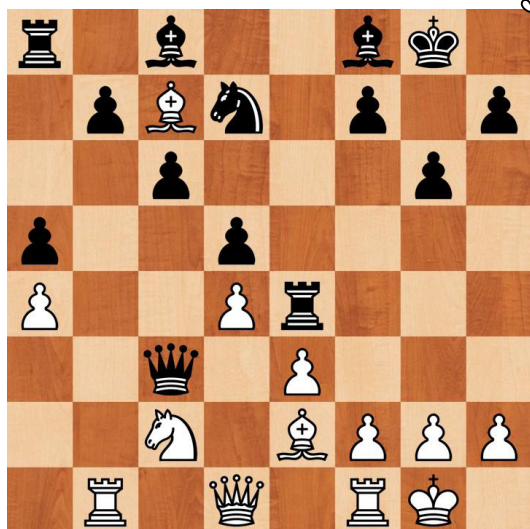


図7

白は [図7] のキースクエアのうち、黒キングから最も遠い a5 のマスを目指したい。そこで Kb2-Ka3 と進めていくことになる。最後は Mr.B さんの示した変化の通り [図5] の局面になるが、[図5] は黒番なので白はキースクエアに侵入することができる。

もし [図5] が白番ならキースクエアには侵入できず、勝つことができない。ここでもやはり、手番が重要な役割を果たしていることに注意しよう。

Calculation Dojo



Jussupow - Pirrot 1995, 19... Qc3
まで。白の最善手を探してください。

課題 2

～見えない決め手を探せ～

1995 年、ドイツのチーム戦 Bundesliga で指された Jussupow (編集部注: GM Artur Jussupow はかつて Kasparov, Karpov に次ぐ世界 No.3 のプレーヤーであり、現在では世界でも指折りのトレーナーとして知られる。Yusupov と表記する場合もあり) - Pirrot のゲームから。白はキャスリングも終えピースの展開も終えているが、その間に黒に 1 ポーンを取られてしまっている。このままゲームが長引けば黒の駒得が物を言うため、白としてはここで駒損の代償を得ておきたい。

しかし、代償を得るための具体的な手順はあるだろうか。盤面全体を広く見渡しながらかけてほしい。

マスター K:

まず、最初に思い浮かぶのは 20. Nb4 からのクイーントラップです。20... axb4? 21. Rb3 だとクイーンが捕まりますが、20... Qa3 とされるとトラップできません (編集部注: 20... Bxb4! 21.Rb3 Qd2 でも逃れている)。そこで別の手を考えました。何もしなければ黒がポーンアップで優勢なのですが、しばらく考えてやっと

20. Bg3 [図 8]

が見つかりました。



図 8

次の狙いは f3 から Be1 で、この筋が実現すればクイーントラップが成功します。黒からこの筋を防ぐ手が見当たりません。次の 21. f3 に対して 21... Rxe3 と取ってきても 22. Be1 とトラップできます。

Mr.B:

白は 1 ポーン少なく、明確なアタックのプランがありません。このポジションをパッと見たとき、白は黒クイーンを捕まえに行くんだなと思いました。しかし、具体的にどうすべきか気づくのに 10 分以上かかりました。

はじめは Rb3 から黒クイーンを捕まえに行くことを考えましたが、そのためには Na1 か Ne1 と指さなければいけません。これには ...Qa3 または ...Bb4 から ...Qd2 で黒クイーンは逃げられるので、白としては失敗します。

黒クイーンを捕まえに行く駒は意外なところにいました!

20. f3! [図 9]



図 9

この手は黒ルークをアタックしてい

るだけでなく、Bg3-Be1 と黒クイーンを捕まえにいく狙いがあります。黒クイーンを捕まえにいくのは c7 にいるビショップでした!

20... Rxe3 21. Bg3

これで次の Be1 に対抗するため、21...Rxe2 が絶対手になります。エクスチェンジアップになりますがポーンは 2 つ少ないので、駒割りは白にとって有利ではありません。ただ、開いた e ファイルを利用したり、黒の白マスビショップが展開していないのを利用して白が主導権を得てプレーすることは可能です。

出題者：

師範代の解説通り、白がアドバンテージを得るためには単身敵陣に乗り込んできたクイーンを攻撃するしかない。クイーンを攻撃するというプランを中心に考えた方は、この局面を正しく理解できていると胸を張って良い。ただし、ルークやナイトでは c3 のクイーンを捕まえることができないので、もう一つクイーンを捕まえるための駒が必要だ。

本譜、白の Jussupow はクイーンの捕獲を諦め、20. Qc1 と進めたが、20... b6 21. f3 Ba3!? 22. Qd1 Rxe3! と複雑なゲームを戦うことになった（最終的には白が勝った）。

この局面で正解を見つけるには注意深く盤面を見渡した上で、創造力を発揮しなければならない。クイーンを捕獲するのは、Mr.B さんの解説通り、c7 のビショップである。正しい手順はマスター K さんの示した

20. Bg3!! [図 8]



図 8 (再掲)

で、次の f3-Be1 がどうしても受からない。20...Bh6 に対しては 21.f4! とすれば次の Be1 が実現する。c7 のビショップを e1 に持っていくというのは盲点になるが、黒クイーンのいる黒マスを攻撃するための駒を探せば見つけられるだろう。

なお、Mr.B さんが示した 20.f3!? は次善の手で、20...Re8 21.Bg3! と進められれば白勝ちだが、20...Rxe3

と切ってくる手があり難しい局面になる。

対して、マスター K さんの解説通り、20. Bg3 と先に指しておけば、Rxe3 に対して Be1 と引けばクイーンを捕まえることができる。一例を示しておこう。

20... b6 21.f3 Rxe3 22. Be1! +- [図 10]

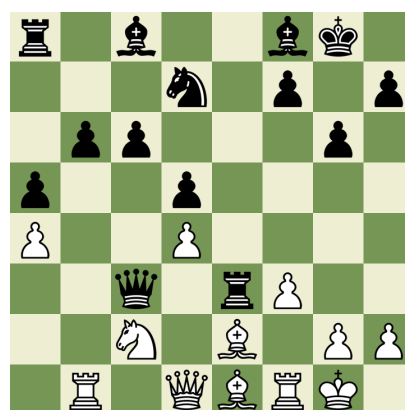


図 10

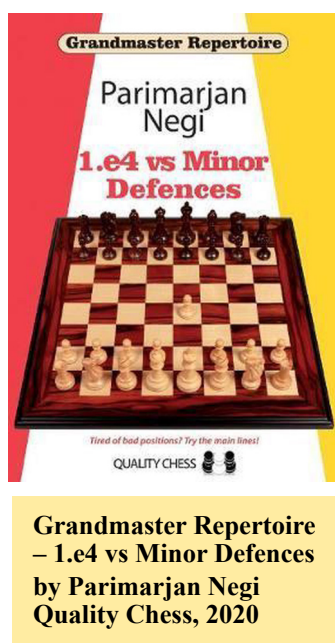
この変化では黒に Rxe2 を指すタイミングを与えていない。

細かいところだが、ちょっとした手順の違いで形勢に差がつくのがチェスの面白さでもある。読みの訓練を怠らず、違いのわかるプレーヤーを目指してほしい。

本連載 Calculation Dojo ですが、新年号から FM 山田弘平さんによる連載にバトンタッチします。

引き続き皆様のトレーニングに役立つ連載となりますので、ぜひ楽しみに！

TYLER'S REVIEW #2



If you are like most 1.e4 players, you probably have your favorite lines worked out against 1...e5, the Sicilian, French and Caro-Kann, but feel less comfortable, or even confused, when a move like 1...Nf6 or 1...d5 appears on the board. Even titled players sometimes struggle against these openings because of their rarity in tournament practice. However, despite their reputation as second-tier openings, they give Black serious chances to wrest the initiative from White and play for a win, especially if White is caught unprepared!

As someone who plays the Alekhine's Defence (1.e4 Nf6) as Black online, I can attest to the effectiveness of these offbeat systems first-hand. I have scored many wins against strong players online with this opening – not because it is particularly good, but rather, because most players are unfamiliar with it and struggle to remember their theory the odd time that they face it in an actual game.

With online chess of all levels currently booming, the popularity of these openings is growing as well. Thus, perhaps more than ever before, it is important for 1.e4 players to be ready for these openings, and not to dismiss them as inferior to the more mainstream defences. In *Grandmaster Repertoire – 1.e4 vs Minor Defences*, Negi provides an excellent repertoire, full of early novelties and new ways of treating these openings, which, apart from being objectively sound and theoretically challenging, may surprise players who are accustomed to having the element of surprise on their side most of the time!

Unlike some of the lines given in his earlier books (such as the French and various Sicilians), Negi does not try to crush or refute Black's set-up right from the get-go. This makes sense when playing against openings that our opponents ultimately get to play more often than we do, due to their rarity. Hence, razor-sharp approaches like the mainline Austrian Attack are not the weapon of choice here.

Negi's repertoire choices are sensible, strong, and flexible. They allow us to challenge Black both practically and theoretically, without burning our own bridges. Of course, due to their rather flexible nature, Black has many ways to play against them. Therefore, to play them well as White, it is important to be flexible and ready to play a variety of different middle-game types. On the other hand, some lines require deep memorization of concrete variations, as there are some instances where we sacrifice a

pawn or a piece and need to know how to handle the position afterwards, or where our set-up is justified by specific tactical variations.

Against the Alekhine's Defence, Negi gives the Modern Mainline (1.e4 Nf6 2.e5 Nd5 3.d4 d6 4.Nf3). This has been the choice of most grandmasters in recent years, and is probably the toughest theoretical challenge to Black's setup. It is not the easiest setup to play, however, as Black has a variety of different ways to respond, which lead to a wide array of different middle-game positions. Novelties abound in this section, with some occurring before move 10 in what I thought were well-trodden paths!

Negi takes on the Scandinavian (1.e4 d5 2.exd5 Qxd5) with the standard 3.Nc3, and gives some very convincing analysis against all of Black's main tries. Readers should pay attention to the move-orders here, as Negi sometimes gives a slightly unusual move-order based on allowing or avoiding particular variations. I never liked the Scandinavian for Black, and after reading this section, would be even more hesitant to take it up with the Black pieces myself.

The largest section of the book is that of the Pirc and Modern defences. These defences probably have the best theoretical reputation of any in this book, though they still fall far from the Sicilian and Open Games in terms of popularity and reliability in top-level chess. These openings can be notoriously confusing and tricky for club players, as they are extremely flexible and full of

move-order tricks. Furthermore, unlike the Alekhine's and Scandinavian defences, where Black loses time moving the same piece multiple times in the opening, he is not really violating any opening principles when playing the Pirc and Modern. Sure, he lets White take the center, but his counterplay against it is strong, and many White players have seen their center undermined time and again against these tricky defences.

Considering how popular the Modern is here in Japan, I was excited to see how Negi would take it on. Against most of Black's move orders, he proposes a flexible system with 1.e4/2.d4/3.Nc3/4.Be3 in both the Pirc and Modern. This can lead to a variety of middle-game positions, ranging from subtle maneuvering to full-blooded pawn storming with castling on opposite sides of the board. There are many important move-order subtleties here, and White's choice of fifth and sixth moves varies a lot depending on what Black does. If White expects to get an advantage here, he must pay careful attention to these move-order subtleties, and not play on autopilot. A very careful study of these chapters is important to understand these subtleties and how to play White's position against Black's various setups, but Negi makes the process both instructive and enjoyable.

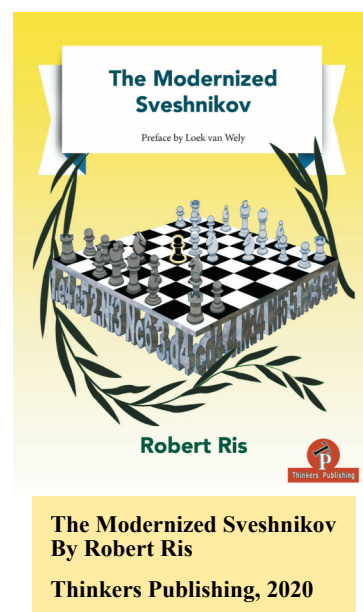
The final section of the book is dedicated to 1...Nc6, 1...b6 and other offbeat tries. These systems should not be underestimated, as they carry some venom and have caught many strong players off-guard. Here too, some memorization and understanding is necessary in order to get an advantage with the White pieces.

It should be noted that although this book is part of the *Grandmaster Repertoire* series, which is notorious for containing high-level books geared towards strong players, it is also full of useful verbal explanations and very human-like moves and evaluations. Negi often goes to great lengths to explain concepts and ideas with prose, and the book never reads like analysis taken directly from an engine. As with Negi's previous books, I have found that this book also serves as excellent middle-game training. One can learn a lot just by playing through the variations and reading the prose! On the other hand, there have been times when I felt that certain variations were above my chess understanding, but even so, they still have a human element to them, which is important in an era of super computers and artificial-intelligence programs like Alpha Zero.

One limitation of the book is that it does not always cover all logical moves and move orders for Black in some of the opening variations, even in the early stages. With super flexible openings like the Modern, however, it is nearly impossible to cover absolutely everything, and one can fill in the gaps with assistance from a database.

If you have a flexible playing style, enjoy opening theory, and do not mind working hard, then this book will definitely help you improve your results against Black's minor defences. Players looking for something a little bit lighter and less subtle should consider John Shaw's *Playing 1.e4. Caro-Kann, 1...e5 & Minor Lines* or Christof Sielecki's *Keep it Simple: 1.e4*.

Highly recommended, especially for ambitious players and correspondence players. 5/5 stars!



As a longtime Sveshnikov player, I was intrigued by the title of this book. How could such a concrete and heavily analyzed opening as the Sveshnikov Sicilian (1.e4 c5 2.Nf3 Nc6 3.d4 cxd4 4.Nxd4 Nf6 5.Nc3 e5) be "modernized?" Surely, the best lines for both sides had been established long before this book, partially due to the strength of modern chess engines!?

It turns out that things are not so simple, as Dutch IM Robert Ris shows in his analysis of the 39 complete games featured in this book. *The Modernized Sveshnikov* does indeed live up to its name, as many of the variations in the repertoire could be considered sidelines, at least when compared to other Sveshnikov works, such as GM Kotronias' tome, *Grandmaster Repertoire: The Sicilian Sveshnikov*. They are not necessarily inferior to the traditional mainlines, however, and may even be better winning tries because the paths are less well trodden.

For instance, in what has arguably been the mainline of the Sveshnikov for many years (1.e4 c5 2.Nf3 Nc6 3.d4 cxd4 4.Nxd4 Nf6 5.Nc3 e5 6.Ndb5 d6 7.Bg5 a6 8.Na3 b5 9.Nd5 Be7

10.Bxf6 Bxf6 11.c3) (see the diagram below), instead of giving the conventional 11...0-0 or 11...Bg5, Ris turns the whole variation on its head by recommending 11...Ne7!?. This is indeed a modern way to handle this variation, which not only avoids a large body of deeply analyzed theory, but also seeks to improve Black's winning chances by pursuing immediate structural imbalances. White should take up the gauntlet by playing 12.Nxf6, doubling Black's pawns, but also opening the g-file for him and adding strength to potential ...d5 and ...f5 breaks. The stage is set for an interesting and unbalanced middlegame.



There are plenty of other lines where Ris strays from the beaten path. For instance, in the sharp 1.e4 c5 2.Nf3 Nc6 3.d4 cxd4 4.Nxd4 Nf6 5.Nc3 e5 6.Ndb5 d6 7.Bg5 a6 8.Na3 b5 9.Bxf6 gxf6 10.Nd5 f5 11.Bxb5 axb5 12.Nxb5 (see the next diagram) I always thought that the only playable move for Black was 12...Ra4. Instead of analyzing an already over-analyzed line, Ris gives 12...Bb7!?, which at the time of writing, had only been tested in 6 games.



There are all sorts of other rare lines and novelties analyzed in many of the variations of this repertoire, giving it a unique flavor when compared to previous Sveshnikov works. Many prospective readers will of course be curious to know what Ris gives against the "Modern Mainline" (1.e4 c5 2.Nf3 Nc6 3.d4 cxd4 4.Nxd4 Nf6 5.Nc3 e5 6.Ndb5 d6 7.Nd5 Nxd5 8.exd5). Ris, staying in the spirit of his repertoire, gives the dynamic 8...Ne7, which was popularized by Carlsen in his 2018 WC match.

There may be some minor variations missing from this book, however. For instance, I could not find the tricky (though objectively not very good) 1.e4 c5 2.Nf3 Nc6 3.d4 cxd4 4.Nxd4 Nf6 5.Nc3 e5 6.Ndb5 d6 7.Bg5 a6 8.Na3 b5 9.Bxf6 gxf6 10.Nd5 f5 11.Qd3 covered anywhere, and it is a line I have actually faced once over the board. Fortunately, minor omissions like this one can be remedied with a database or other Sveshnikov sources.

One great thing that sets this opening book apart from many others is the final chapter, which features 40 thematic tactical and positional puzzles from high quality Sveshnikov games. This chapter tests and improves one's handling of the quirky and often irrational middlegames that result from this opening. This is something that I wish more opening books included.

This book could have been improved by including a chapter on the Rossolimo (1.e4 c5 2.Nf3 Nc6 3.Bb5) which is the bane of many would-be Sveshnikov players. Including this increasingly popular anti-Sicilian would have made the book a fair bit longer, and is arguably outside the scope of such a work (which proposes a complete repertoire after 5...e5). On the other hand, 3.Bb5 is the move you are most likely to face these days after 2...Nc6, so it is a nice bonus if it is also covered in a Sveshnikov repertoire book.

Finally, although this is an excellent book, it might not be the best source for Sveshnikov beginners. Although there is plenty of prose to explain what is going on, as well as a complete game format to give readers a feel for how the games occur from start to finish, there is also a lot of concrete analysis, making it easy to feel overwhelmed by the mass of variations. Furthermore, as discussed above, many of the recommendations are not exactly "mainlines," and hence, Sveshnikov noobies may prefer to start with a work that recommends more conventional approaches to handling this opening. Lakdawala's *The Sicilian Sveshnikov: Move by Move* may be a good option for those who are new to the opening or looking for a more conventional, less variation-dense survey of the Sveshnikov.

Highly recommended for ambitious players who enjoy playing and studying wild and highly unbalanced positions. 4.5/5 stars!

(Scott, Tyler)

OTB

プレイヤーのための

チェスプロブレム

前嶋 啓彰 入門

③



1. はじめに

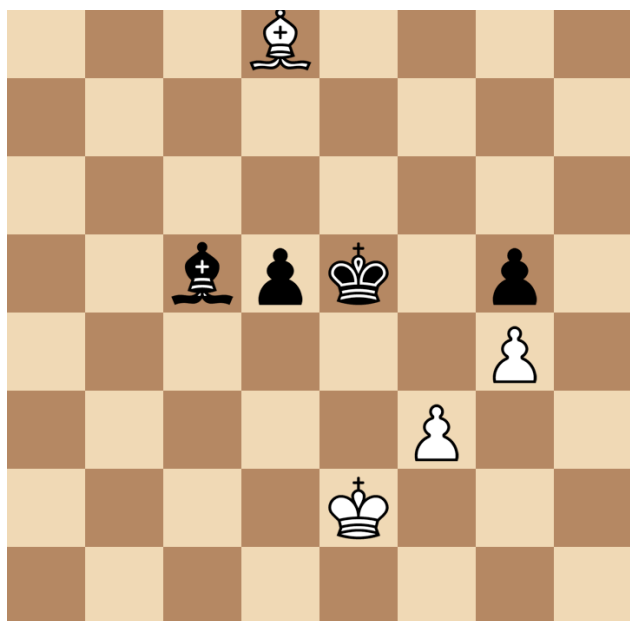
本連載も、おかげさまで第3回を迎えることができました。読者の皆様に厚く御礼申し上げます。

今回は、Helpmate（ヘルプメイト）というタイプのプロブレムを紹介します。黒と白が協力して黒キングをメイトする、というプロブレムです。実戦ではまずありえない設定ですが、プロブレムではある程度一般的な設定として知られています。

プロブレムではこのように、チェスのルールは変えず、チェスの目的を変えたタイプの設定というものがしばしば見られます。その中でも、ヘルプメイトはもっともポピュラーなもののひとつです。

私も、実戦で何度か、わざわざメイトになるような位置にキングを動かしてしまったという苦い思い出があります（多くの方も同じではないでしょうか）。そして、そのような場合のメイト形は得てして非常に美しいメイト形になることが多いように思います。

下図は **Ogasa, S – Maeshima, H. C-League 2018-11, Chiba, 1-0**、白が 52. Ke2 と指した局面です。



52... Kf4? 53. Bc7+! (53... Bd6 54. Bxd6#) 1-0

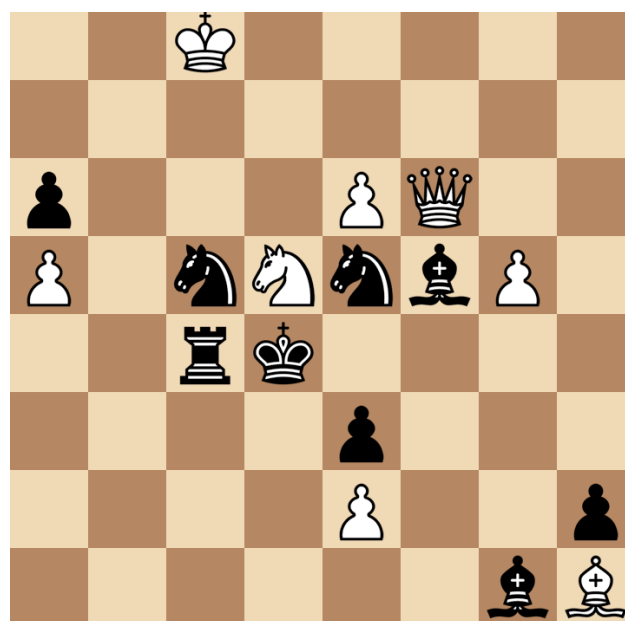
ヘルプメイトでプロブレミストが表現したいものも、一つには美しいメイト形があります。とてもメイトにならないような形から、お互いの協力によってどうやってメイト形を作り出すか、というところに面白さを見出すことができれば、ヘルプメイトをきっと好きになると思います。

それでは早速、ヘルプメイトの実例を見ていきましょう。まずは、2手ヘルプメイトです。

2. ヘルプメイトの実例

Seidemann, F.,

Deutsche Maerchenschach-Zeitung, 1931



h#2 (8+9)

1931年に創作されたヘルプメイトです。歴史上最初のヘルプメイトは Max Lange (Italian Game の定跡 Max Lange Attack にも名前を残しているプレーヤーです) による、19世紀中ごろのものとなっていますので、それからだいたい80年前経ったあとのプロブレムです。

設定の説明をします。h#2は2手ヘルプメイトを示しますが、ヘルプメイトは黒から指し始めて、最後の白の手で黒キングがメイトになるような手順を探します。つまり、2手ヘルプメイトは、「黒→白→黒→白」という順で指します。なお、白から指し始める場合には、例えば「2.5手ヘルプメイト(白→黒→白→黒→白という手順の問題を指します)」という言い方をします。

また、ヘルプメイトの場合には、「解が1つ」といった場合には純粋に1通りの手順しかありません。つまり、白の初手に対して黒の対応を複数考える、といったダイレクトメイトのプロブレムのようなことは不要です。

黒と白が協力して黒キングをメイトにする、といっても、通常のチェスの指し手のルールは適用されます。たとえばチェックの放置や、チェックがかかる位置にキングが移動する手などは指せません。

さて、どうやれば2手で（黒の協力を得ながら）黒キングをメイトできるでしょうか。ヘルプメイトを解くポイントは、手順ではなくメイトの形を考えることです。今盤上に残っている駒だとどのような形でメイトできるか、を考え、その形に至る手順を考える、という順番で解くことが推奨されています。

例えば、図から白がナイトをc6に持っていき、黒のc3がふさがってればメイトです。そこで、白の2手はナイトをc6に持っていく手、黒の2手は自分の駒でc3を塞ぐ手、としてその形に至れるかを考えていきます。

解

1... Bd3 2. Qf2 exf2 3. e3#

（本来ヘルプメイトにおいては1. xxx yyyと書いたときにxxxは黒の手、yyyは白の手を指すような記法で書きますが、本稿ではOTBでの記法に合わせて通常通り1. xxx yyyと書いたときにxxxを白の手、yyyを黒の手として書きます。ご了承ください）

解説

まず初手で黒ビショップをd3に持っていくことで、白のクイーンの道を開けるとともに黒キングの逃げ道を塞ぎます。白は次の手でf2にクイーンをサクリファイスし、次の黒のexf2を準備します。

そして最終手でポーンを突き、黒キングがメイトになります。

今までの2回の連載のプロブレムの解答に比べて、1問の解答としては非常に短い解答であると思われる方が多いかと思います。ヘルプメイトは黒白が協力するという関係上、途中の分岐がないため1解のみのヘルプメイトでは非常にシンプルなものしか作ることができません。

そこで、ヘルプメイト作家はヘルプメイトの表現で変化と複雑性と美しさをもたらすため、以下の手法を取ることが多いです。

- 1) 複数解
- 2) Twinの設定

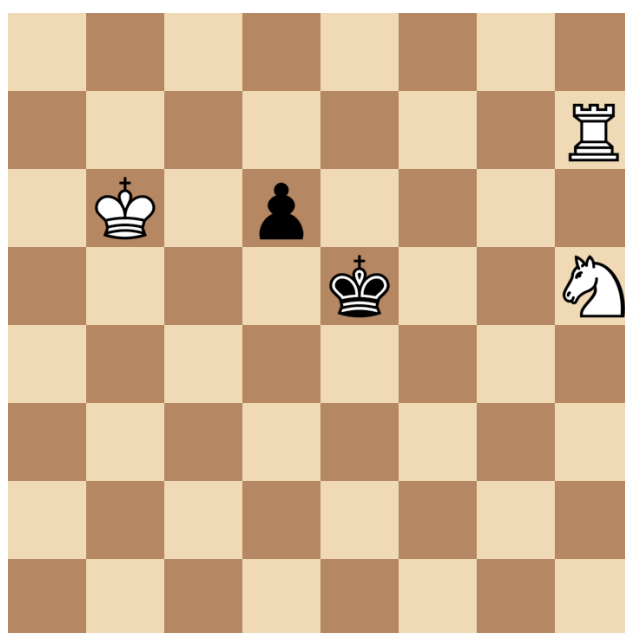
3. 複数解問題

ダイレクトメイトのプロBLEMでは、初手は1通りで、黒の対応に対して白の対応も1通り、というのが基本でした。そして、初手が複数通りあるプロBLEMはcookedと呼ばれ、完全作としては扱われないという話を連載第2回で書きました。

しかし、ヘルプメイトにおいては、初手（から始まる手順）が複数通りあり、メイト形や手順そのものに関連性がある、というものが特に短手数（2-3手）のものでは一般的です。

まずは、複数解のプロBLEMから説明します。実例を見ていきましょう。

Maeshima, H. unpublished original, 2020



h#2.5 (3 sols.) (3+2)

拙作です。h#2.5なので、白→黒→白→黒→白でメイトになります。また、3 sols. (3 solutionsと書かれることもあります)は、黒キングがメイトになる手順が3つある、ということを示します。

解

1. Re7+ Kd4 2. Re4+ Kd5 3. Nf6#
1. Ng3 d5 2. Re7+ Kd6 3. Nf5#
1. Rh8 Ke6 2. Re8+ Kd7 3. Nf6#

解説

まずは、最終形を見てみましょう。1. Re7+ Kd4 2. Re4+ Kd5 3. Nf6# は以下の図1、1. Ng3 d5 2. Re7+ Kd6 3. Nf5# は図2、1. Rh8 Ke6 2. Re8+ Kd7 3. Nf6# は図3になります。

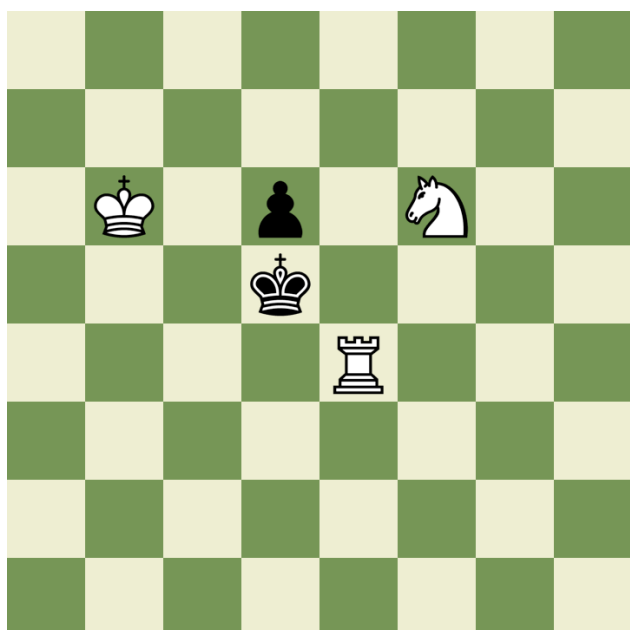


図 1

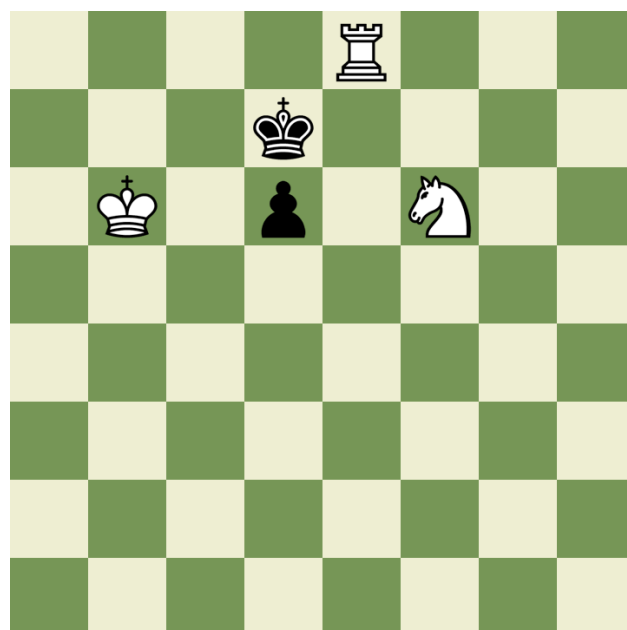


図 3

メイト形が似ていることがおわかりと思います。このような、「メイトの形が似ている複数のメイト」のことを Echo mates と呼びます。図 1 と図 3 は、ちょうど 6 段目を対称軸として線対称になっていますし、図 2 と図 3 はちょうど上に 1 段ずれた形になっています。

図 2 と図 3 のように、最終形で黒キングがメイトされるマス目の色が異なっている Echo mates のことを特に Chameleon Echo と呼びます（同色であれば Monochrome Echo です）。

このようにメイト形が類似する複数解、あるいは手順が類似する複数解（例えば、「初手は駒をピンする手、次の手はピンを外す手、次の手はキングの逃げ道を塞ぐ手……」のような手順が複数解で共通するものです）を設定する問題が、ヘルプメイトではよくあります。

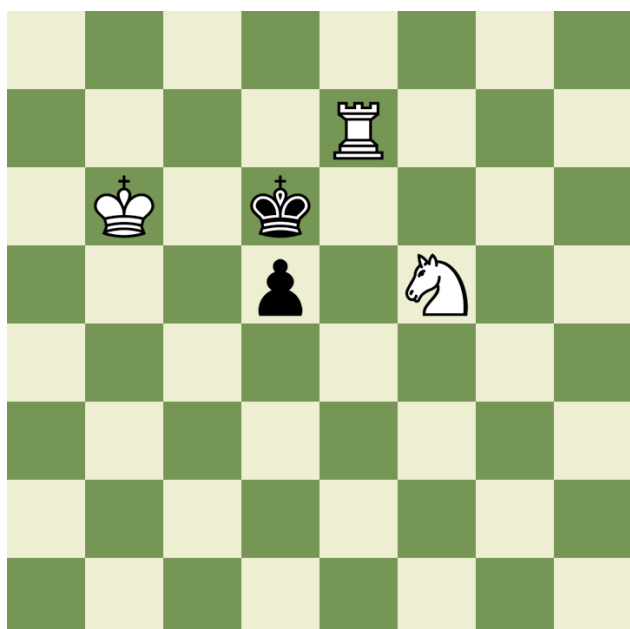


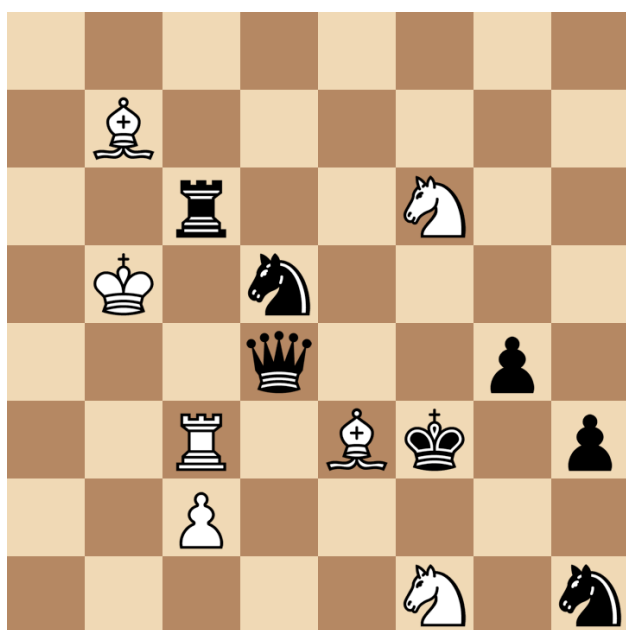
図 2

4. Twin の問題

ヘルプメイトに多様性を持たせるそのほかの手段として、Twin の設定があります。これは、盤面を一部少し変えた局面も同様に問題として成立するように作るものです。変え方としては、1つの駒の配置を変える、1つの駒の種類を変える(ビショップ→ナイトなど)、駒を1つ足す、盤面を 90 度 /180 度 /270 度回転させる、などがあります。

それでは Twin の例を見てみましょう。

Feather, C. Schach-Report, 1994



h#2 b) bKf3 -> g2 (7+7)

Twin の設定は問題設定中に書かれます。b) bKf3 -> g2 と書かれているのがそれで、これは「出題図に加えて、黒キングを f3 から g2 に動かした局面についても、2手ヘルプメイトとして解きなさい」という意味です。このような Twin の設定の時に、出題された図はこの後 a)、Twin で設定された図は b) として言及されます。

作者の Chris Feather はヘルプメイトの大家として知られています。Black to Move という、1冊すべてヘルプメイトの解説に充てた本も書いています。

それでは解答を書きます。

解

a)

1... Rxc3 2. Nxd5 Qh8 3. Nxc3#

b) bKf3 -> g2

1... Nxf6 2. Rxc6 Qa1 3. Rxf6#

解説

2つの解の関係性が素晴らしく作りこまれているプロブレムです。まず a) では c3 のルークが黒によって取られ、f6 のナイトが動くことでメイトになりました。一方、b) では f6 のナイトが黒によって取られ、c3 のルークが動くことでメイトになりました。このように、取られる駒とメイトする駒が2つの解で入れ替わるものを Zilahi と呼びます。Zilahi はヘルプメイトでは非常によく見られるテーマです。

さらに、両解とも黒クイーンが、ビショップのラインを邪魔しないような位置に2手目で動きます。このような手のことを Hideaway と呼びます。

さらに、a) では黒ルークが白ルークを取り、白ナイトが黒ナイトを取っていますが、b) では白ルークが黒ルークを取り、白ナイトが黒ナイトを取っています。これも見事です。

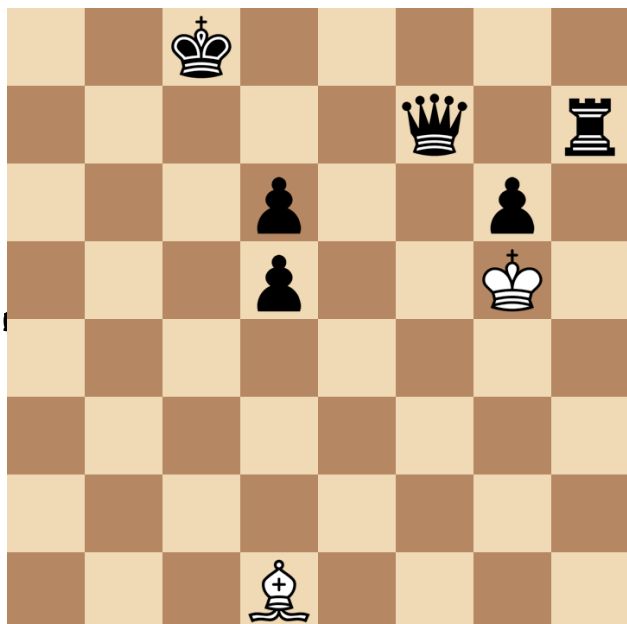
この2つの解が、どちらも「初手は駒取り、次の手は白のピースでビショップのラインを塞ぎながら駒取り、次の手はクイーンの Hideaway、最終手はディスカバードアタックでメイト」ということが共通していることにご注目ください。

5. 長手数のヘルプメイト

このように、ヘルプメイトでは白黒協力しながら黒キングをメイトにするという目標のもと、さまざまな多様性を持った作品が作られています。比較的新しい問題設定のため、まだまだ開拓されていない形も多く、その意味では新しくプロブレムの創作を始める方にも勧められる問題設定であるといわれています。

最後に、長い手数のヘルプメイトをご紹介します。長い手数のヘルプメイトは解が多くなりすぎる（複数解が許容されるといっても、それらの複数解に意味がある関連性がないといけません）ことがあるため作るのが難しいですが、うまく制御されたヘルプメイトは大変面白いものになります。

Mihajloski, Z. 2nd Prize StrateGems, 2019



h#6 (2 sols.) (2+6)

長手数のヘルプメイトでよくあるものとしては、白がビショップとキングのみで、ビショップでのメイト形を作るというものがあります。ビショップでメイトするために、黒はキング周りに自分の駒を集めますが、どのような手順で駒を集めていくかがポイントになります。

解

1...Qa7 2. Kf6 Rb7 3. Bg4+ Kc7 4. Ke7 Kc6+ 5. Kd8 Qc5 6. Kc8 Rb6 7. Bd7#

1...Qf4+ 2. Kxg6 Rh6+ 3. Kg7 Qe5+ 4. Kf8 Kd7 5. Ba4+ Ke6 6. Ke8 Rf6 7. Bd7#

メイト形を見ていただくと、d ファイルを対称軸とする対称形の Echo Mates となっています。途中手順もすべて限定されており、手順前後が許されないことをご確認ください。

6. おわりに

今回は、ヘルプメイトを紹介しました。白黒が協力して黒キングをメイトにするという通常の OTB のプレーでは現れないような条件ですが、メイト形を見つけるという意味、また手順の妙を楽しむという意味で面白いプロブレムの設定だと思います。

今回は今まで紹介した以外で、一般的にプロブレム雑誌でみられる設定を一挙に紹介します。お楽しみいただければと思います。

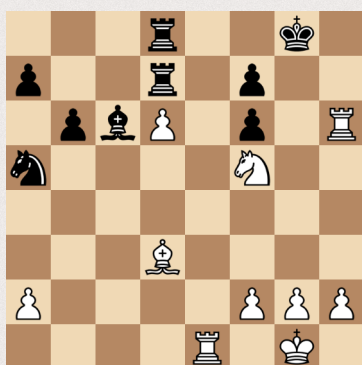
盤上この一手

編集部

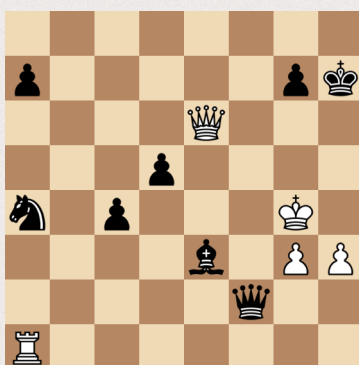


国内のゲームから、盤上に咲く美しい一手を集めています。コーヒー片手に絶妙な手を鑑賞するのはいかが？全日本選手権2020より。

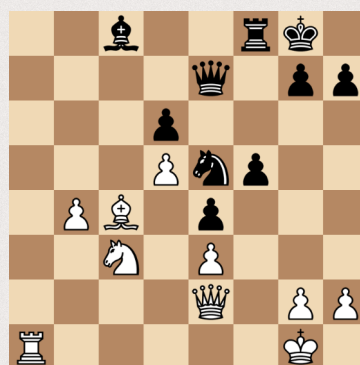
1) △白番
29...Kg8 まで



2) ▼黒番
33. Kg4 まで



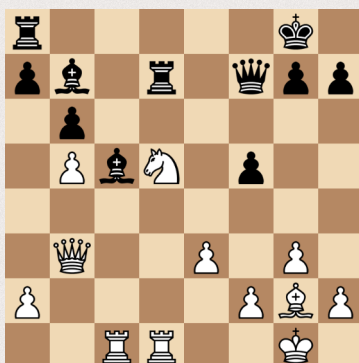
3) ▼黒番
23. Rxa1 まで



4) ▼黒番
35. b3 まで



5) △白番
23 ...Qf7 まで



解答は次号にて。

札幌チェスクラブのこと

札幌チェスクラブ会員 西森 敏之



(1) 札幌チェスクラブのはじまり

現在の札幌チェスクラブは、1987年3月ころに解散した旧札幌チェスクラブのメンバーであった金丸知司さん、佐賀弘さんと私の3名が、1987年4月に再結成したチェスクラブです。

活動拠点を探すのが大変で、チェス・将棋・碁会所「王様のゲーム」から始まって、次には、「札幌将棋センター」内にある2畳ほどのレクチャー室を使わせていただいて、メンバーが3名しかいないので、2人が対局している間は、私は将棋センターの小学生と将棋をしていました。数年後には、新メンバーが1人、2人と入ってきて、札幌市の中央区民会館の会議室を借りるようになりましたが、ここは会議室使用の抽選で負けたりして、かなり不安定でした。その後、北海道が運営し会議室がたくさんある「かでの27」（注：北2条西7丁目にある）で、使用料が高めですが、安定的に半年前から（現在は1年前から）予約が取れるようになりました。

(2) 札幌チェスクラブにロシア人の小学生

札幌チェスクラブの会員が7、8人になっていた2002年7月5日（金）の正午過ぎに、北海道大学の私の研究室にSanjay Giriさんが訪ねて来ました。ロシアのサンクトペテルブルグから北海道大学の博士課程に留学してきた学生ということでした。Sanjayさんには、Anishという小学生の息子さんがいて、ロシアでチェス学校に通っ

ていたが、日本に来てチェスの相手がなくて困っている。調べたら札幌チェスクラブがあることがわかり、またクラブの関係者が北海道大学の教員であるので、これは好都合と訪ねて来たということです。札幌チェスクラブはAnishを大喜びで歓迎すると伝えました。

Anishの誕生日は1994年6月28日ですので、私が初めてAnishと会ったときは8歳になったばかりです。Anishは、お母さんと妹と一緒に札幌チェスクラブの例会の会場に、午前9時に来て、例会が終わる午後4時頃にお母さんが迎えに来るのが常でした。

Anishのチェスの印象は、最初の年は日本の子どもたちよりは遙かに強くてきちんとした手を指していましたが、まだ私でも集中すれば負ける気がしないという感じでした。ところが、2002年の12月から2003年の5月ころまでロシアに帰り、その間にチェス学校で鍛えてきたらしく、2003年6月15日に札幌チェスクラブに復帰してきたときには、別人のように強くなって、その日は、私は運がよくて引き分けられましたが、青木康祐さんと杉本公一さんは負けてしまいました。その翌年2004年3月の北海道選手権でAnishが優勝しました（写真1）。

その Anish が、オランダに移った後で、2009 年に 14 歳 7 か月で、当時の世界最年少のグランドマスターになり、2015 年には FIDE レイティング 2773 で世界第 3 位になりました。このことは、札幌チェスクラブの会員にとって望外の喜びであり、いつの日にか Anish が世界チャンピオンになるのではないかと夢見ています。

(3) 札幌チェスクラブの活動

札幌チェスクラブの現在の活動としては、毎月 2 回例会を開催し、3 月の「北海道チェス選手権大会」、8 月の「札幌サマーチェス大会」、10 月の「札幌オータムチェス大会」の年 3 回の大会を主催しています。

札幌チェスクラブの例会では、主に NCS 会員の間で、公式戦を通常 3 ラウンド行っています。組み合わせは、30 面体さいころを 2 個使って行い、持ち時間は、デジタル対局時計を使い、各プレーヤに最初に 25 分、1 手ごとに 30 秒追加するというフィッシャー方式を取り入れています。

札幌チェスクラブの例会では、公式戦のほかに、初心者の方員に対しては、チェス歴 20 年～30 年のベテランのプレーヤーが、基本戦術の手ほどきや、公式戦をするための準備として棋譜の書き方などを指導しています。

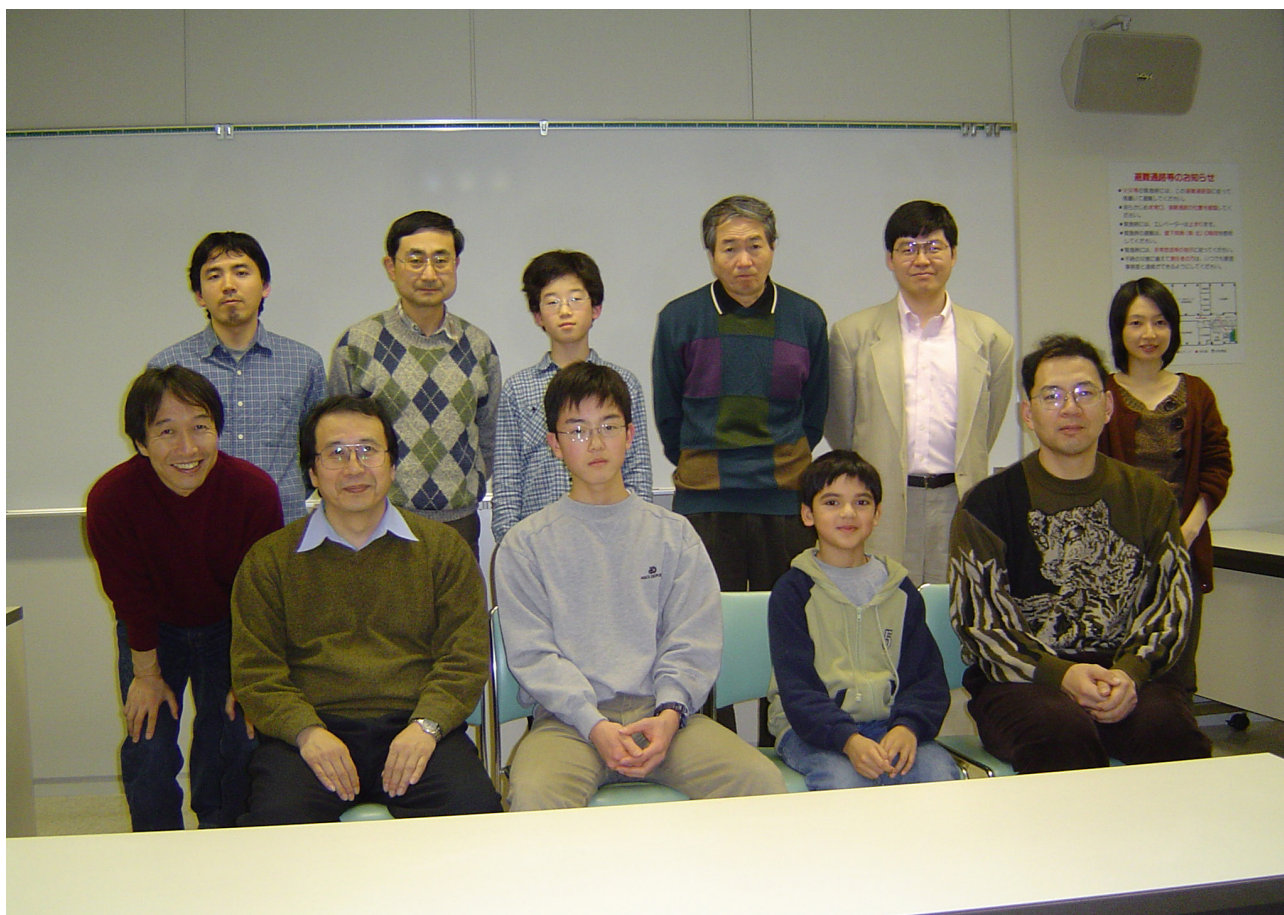


写真1 2004年3月 北海道チェス選手権の参加者

(4) いくつかの思い出

札幌での大会には、山田明弘さんに函館の子供たちを大勢連れてきていただいて、2009 年ころには参加者が 30 名近くの大盛況になったことがありました（写真 2）。また、函館のチェスクラブの何人かの小学生が札幌に引っ越してきて、札幌で同級生になった小学生をチェスに誘って、札幌チェスクラブの会員になるということもあり、函館のチェスクラブは頼りになる仲間でした。

多分、1995 年ころ、会員数名で、吉井優紀彦さんが当時教員をしていた芦別市にあった「赤毛のアン」のテーマパークに、杉本公一さん所有のジャイアント・チェス・セットを持ち込み、広場でゲームを行うデモンストレーションをしたことがありました。ゲームをしていると、通りがかった幼児が闖入してきて、駒を抱えて遊び始めたことがあったのは楽しい思い出です。

また、21 世紀に入ってから、金丸知司さんと親しい札幌の将棋の団体が、札幌市の歩行者天国で、人間将棋をするということがありました。そのときに、札幌チェスクラブも、会場の 1 部を使用させていただくことにな

り、私がイギリスから購入したミニ・ジャイアント・チェス・セットを持ち込み、ゲームを行いました。

新型コロナウイルスが流行する前には、いまは禁止中ですが、「かでの 27」の会議室には電気ポットがあるので、コーヒー・紅茶・緑茶・ココアなどを持ち寄って、好きなものを飲みながら、楽しく ゲームができました。早くそういう時代が帰ってきて欲しいものです。

(5) 札幌チェスクラブの理想

札幌チェスクラブは、次のようでありたいと思っています：

○ 札幌チェスクラブは、真摯にチェスに取り組み、試合を通じて技量を高めるとともに、対局マナーを身につけ、奥深いチェスの本当の美しさと面白さを楽しむための集まりです。

○ また、札幌チェスクラブは、チェスに興味をもち、チェスを始めようとする方々を受け入れ、チェスの指導をすることにより、チェスの普及を目指します。



写真 2 2009 年 3 月 北海道チェス選手権の参加者

INFORMATION

TOURNAMENT



新年チェス祭り 2021
New Year Chess Festival
2021
1/9 (Sat)

きゅりあん (東京 JR大井町駅前) 5階・NCS公式戦・5Rスイス・ラピッド 15分+10秒/手・先着34名・**募集終了**(詳細はNCS HPにて [LINK](#))
Kyurian in Tokyo, NCS rated, 5R Swiss, Rapid 15m+10s/m. **Registration closed.** (Details on our website: [LINK](#))

TOURNAMENT

Chess Challenge 1

チェスチャレンジ 1



チェスチャレンジ1
Chess Challenge 1
1/10 (Sun)

きゅりあん (東京 JR大井町駅前) 5階・NCS公式戦・3R・ラピッド 15分+10秒/手・先着16名・**募集終了**(詳細はNCS HPにて [LINK](#))

Tokyo, NCS rated, 3R, Rapid 15m+10s/m. **Registration closed.** (Details on our website: [LINK](#))

TOURNAMENT

TGIF BLITZ
TOURNAMENT

第3金曜日 20:00

PLAYED ON [Chess.com](#)

花金ブリットトーナメント
TGIF Blitz Tournament
毎月第3金曜日 1/15 (Fri) 20:00

オンライン(Chess.com)・NCS Japan Clubトーナメント・全7R・3分+2秒/手 (詳細はNCS 公式クラブページにて [LINK](#))

Online (Chess.com), NCS Japan Club tournament, 7R in total, Blitz, 3m+2s/m. Every month on the 3rd Friday
Details on our club page: [LINK](#)

TOURNAMENT



国際ChessKid FIDEチャレンジ
Intercontinental ChessKid
FIDE Challenge
1/23 (Sat) 18:00 - 21:00

オンライン・8歳以下の部、9-12歳の部・7R・ラピッド 10分+2秒/手・詳細はNCS HPにて [LINK](#))

Online event, Section: ages 8 and Under/Ages 9-12, 7R, Rapid 10m+2s/m.
More info: www.chesskid.com

TOURNAMENT

NCS RAPID ONLINE
CHAMPIONSHIP
グランドファイナル
GRAND FINAL

NCSラピッドオンライン選手権
グランドファイナル
NCS Rapid Online
Championship Grand Final
1/24 (Sun) 13:00 - 18:00頃まで

オンライン・5R・ラピッド 15分+10秒/手 (詳細はNCS HPにて [LINK](#))

Online, 5R, Rapid 15m+10s/m.
Details on our website: [LINK](#)

TOURNAMENT

CHESS CHALLENGE 2
全日本チャンピオン
同時対局

チェスチャレンジ 2 + 全日本
チャンピオン同時対局
Chess Challenge 2 + Simul
by the Japanese Champion
2/20 (Sat)

きゅりあん (東京 JR大井町駅前) 5階・ラピッド・全日本チャンピオンによる同時対局・詳細は後日NCS HPにて
Kyurian in Tokyo, Rapid, Simultaneous exhibition by the Japanese champion. Details to be followed on our website)

NCS 公式クラブが
立ち上がりました



「Chess.com National Chess Society」で検索！



FIDE 協賛
子ども向けオールインワン
チェス学習サイト

詳しくは NCS HPへ



FOLLOW US
@Chess_Society



NCS OFFICIAL
CHANNEL

日本チェス連盟
National Chess Society of Japan

Subscribe!

編集後記

コロナが世界中に広がり、Black Lives Matter、オーストラリア、アメリカカリフォルニア、オレゴン州付近の山火事、アメリカ大統領選挙、また NBA のスーパースター、コービー・ブライアントの突然の死など、歴史に残る出来事がいくつか起きた 2020 年ももうすぐ終わりです。チェス界でもオリンピックが中止になったり、ほぼ全ての大会がオンラインになったりと、良くも悪くも今までにない変化が多くありました。その大きな原因となったコロナもまだまだ収まっていますが、時は過ぎていきます。来年のチェス大会の行方もはっきりとしませんが、皆さんのご協力と共に、小さな規模の大会でも開催していきたいな、と思っています。とにかく早く落ち着いて、心配なくチェスが指せる日が来るのが待ち遠しいですね…。そのためにも一人一人が気をつけて健康に毎日大切に過ごしていきましょう！いつもとは違った年明けとなるかと思いますが、元気に新しい年が迎えられるよう、心から願っています。来年またどこかでお会いできることを楽しみに …。

ヒーバート由美子

NCS Letter の改善のため、簡単なアンケートにご協力お願いします！

<https://forms.gle/Kf3mVdg6zkAEN8aj9>



編集部：山田明弘・神田大吾・ごまめ・おはな・木下奏子・ヒーバート由美子（順不同）

発行：日本チェス連盟（一般社団法人 National Chess Society of Japan）

本誌に掲載された写真、イラスト、記事、棋譜の解説などについて、
無断転載および無断配布を禁止します。著作権はそれぞれのクリエイターにあります。